

日本中の正宗一覧（2025.3.20）

■ご覧いただく前にお伝えしたいこと

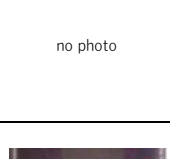
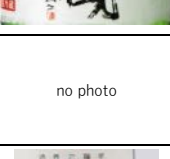
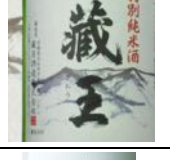
蔵元の情報やラベルを見つけたものは、できる限り一覧に掲載しました。この一覧に掲載していない正宗が多数ありますが、すでに廃業したものやラベルなどの情報が無く、過去の酒銘だけが判っているものは省略しています。

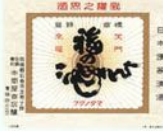
掲載していない正宗のラベル画像や情報が入り次第、一覧に追加しています。

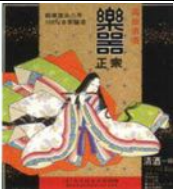
更新されていない古いWeb上の情報からのラベル画像も今後キャプチャできない可能性があるため、お断りする前に使わせていただいたものもありますので出典元を記載いたしました。

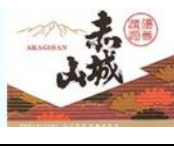
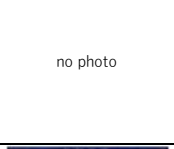
なお、正宗の酒銘は判明しているが、現時点における情報が少なすぎるものは、一覧に掲載していない。

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
1	×	×	旭正宗	大谷酒造株式会社	北海道		あさひまさむね 1898年（明治31年）味噌・醤油の醸造から創業。 旭川は酒造りが盛んで、北の灘と言われるほど醸造業が盛んであった。蔵元は、旭川を代表する財界人でもあり、最盛期1400石を出荷、千石蔵の仲間入りをしていたが、昭和45年(1970)に廃業。跡地は現在は旭川中央郵便局となっている。	⑤ https://aucfre.com/items/p828654488	全国酒類醸造家名鑑 昭和31年11月第5版 (株) 醸界タイムス社 131ページ
2	×	×	森正宗	戦前：落合酒造店 復刻版：六花酒造株式会社	北海道 青森 (復刻版)		もりまさむね 戦前は、道南の森町にある創業明治18年(1885年)の落合酒造店が蔵元であったが、戦争中の昭和18年に蔵を閉じることになる。 戦後、復刻を求める声に、青森の六花酒造株式会社により復刻版が発売された。	⑤ https://richwell.net/6443.html	復刻版醸造元 六花酒造株式会社(青森県) 経営企画室長 高坂氏から メール照会の返答 2025.3.10
3	○	×	千鶴正宗	合同酒精株式会社	北海道		せんかくまさむね 合同酒精は戦時中、ペニシリンや航空燃料の製造に携わり、旭川に本社があった。浅草の神谷バーで有名な神谷酒造が明治33年に旭川工場を設立したことが前身。この銘柄は、今も「千鶴」（せんかく）という名称で調理酒として販売されている。	⑤ http://www.etro-kanban.com/sesyu/miyuki.jp	オエングループ 合同酒精HP https://www.oenon.jp/company/history.html
4	×	×	保久名正宗	名寄醸造株式会社	北海道		ほくなまさむね 大正8(1919)年、名寄の町議会議員だった野坂、三井両氏の共同出資で創業。昭和のどこかで廃業した。 レアな戦前のホーロー看板（右）が名寄で発見されている。	⑤ http://www.etro-kanban.com/sesyu/hokuna.jp	北海道酒造研究会会報 (昭和14年2月) 北海道酒造研究会発行 88ページ
5	○	○	岩木正宗	株式会社竹浪酒造店	青森		いわきまさむね 正保二年(1645)越前敦賀から津軽に渡り造酒を始めると記録が残されている津軽最古の蔵元。2020年に破産、銘柄と酒蔵を新会社を設立して継承させた。「青森一の変わり者」と異名がつくほど爛酒にこだわる濃醇な酒造りをする。ラベルに爛酒専心の文字が見られる。	③	蔵元のホームページ 竹浪酒造店株式会社 https://takenamishuzoten.com/products/iwakimasamune-junmaisuy-720
6	○	×	寿正宗	寿酒造株式会社	青森		ことぶきまさむね 明治10年創業、祝いの席で飲んでもらいたいと命名された。 現在、酒造りは廃業、酒販店に転業後、コンビニ経営へさらに転業して会社は存続している。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)11ページ掲載
7	×	×	十和田正宗	二北酒造株式会社 十和田正宗盛喜株式会社	青森		とわだまさむね 江戸時代末期に創業された蔵元など13の醸造家が、第二次世界大戦中の企業整理令により統合、二北酒造(株)が設立されたのち、戦後の独立や廃業を経て、昭和59年(1984)に残った5銘柄を工場ごとに、分割した中の1銘柄だったが、2010年に廃業。現在、酒蔵を観光施設として公開している。分割した残り4社中3社は、銘柄ごとに「桃川」「鳩正宗」「関乃井」として現存。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)12ページ掲載
8	○	○	鳩正宗	鳩正宗株式会社	青森		（上段）はとまさむね （下段）いなおまさむね 明治32年、蔵のある地に流れる稲生川に因み「稲生正宗」を酒造したことに始まるとされている。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
9	○	×	稲生正宗				一羽の白鳩が蔵に舞込み神棚に止まった。そのうち棲みついてしまった。「この鳩は蔵の守神に違いない。」と大切に飼い、鳩の死後祠を作り鳩神様として祀り、以降鳩正宗と改名し現在に至る。	⑤ 取扱い酒販店 中居酒店 (青森県) HP	鳩正宗株式会社HP https://www.hatomasa.jp/about
10	○	×	花正宗	関善酒店	秋田		はなまさむね（上段） ひのでまさむね（下段） 創業1856年（安政3年）の旧蔵元、所在地の花輪村を代表する酒になる願いを込めて酒銘にしたという。木造一部3階建ての建築物で、秋田県を代表する明治期の伝統的商家の建物は、国の登録有形文化財に登録されている。造り酒屋としては昭和58年に廃業。 現在は建物内をガイド付きで見学できる観光スポットになっている。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)33ページ掲載
11	○	×	日出正宗			no photo			秋田県酒造史 本編 秋田県酒造史編 1988.8刊、355ページ
12	○	×	路正宗	千葉醸造株式会社 株式会社 北鹿	秋田		ふきまさむね 明治31(1898)年に創業。元の酒銘は「富貴正宗」だった。昭和19(1944)年に戦時の企業整備令により北鹿酒類製造に吸収合併、現在も株式会社 北鹿は秋田の良質な天然水で醸造している。	⑤	秋田県酒造史 本編 秋田県酒造史編 1988.8刊、348ページ
13	○	×	由利正宗	株式会社齋彌酒造店	秋田		ゆりまさむね 明治35(1902)年創業。大和朝廷が蝦夷に備えた砦として、由理柵を設けた。鳥海山麓に由利原と呼ばれる台地がある。また野生の百合が群生していることから当地の地名が由利となったことに酒銘が由来。由利正宗は2022年に製造中止、現在は「雪の茅舎」にリブランド。	①	秋田県酒造史 本編 秋田県酒造史編 1988.8刊、367ページ
14	○	×	山本バイク正宗	合資会社山本酒造店	秋田		やまもとばいくまさむね 明治34年創業、酒を肴に、嘶に花を。楽しくまじめに酒造りとある。飲んだら乗るな！乗るなら飲むな！でお馴染み、バイク乗りの山本社長が自ら栽培した酒米で仕込んだ限定酒。上品なこし餡のような優しい甘みが口の中をブォンブォオオンと広がるらしい・・・	⑤ 小売酒店HP 酒専やまもと 画像使用承諾 2025.3.26	
15	○	○	丹頂正宗	株式会社紫波酒造店	岩手		たんちょうまさむね 南部杜氏発祥の里 紫波。江戸初期、1678年(延宝6年)。近江商人であった祖・村井権兵衛が大阪三池より池田流の『すみ酒』の醸造技術を持ち込んで今の紫波町志和地区で酒造りを始めたと言われる。	⑤	紫波酒造店商品紹介 https://www.shiwa-shuzoten.com/brand/
16	○	○	戦勝政宗	伊澤本家・勝山酒造株式会社	宮城		せんしょうまさむね 元禄年間1688年に創業してから320年以上にわたり酒造りを行う。今なお続く、仙台唯一の伊達家御用蔵である。元の酒銘は「戦勝正宗」だが、伊達政宗にちなみ「政宗」としている。「香り豊かでふくよかな味わいを是非、お楽しみください」とある。	③ 蔵元HP画像の使用 許諾 伊澤本家・勝山酒造株式会社 2025.3.11	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 403ページ

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
17	×	×	萩正宗	伊澤 平太郎 (株式会社伊澤竹に雀本舗)	宮城	no photo	はざまさむね 明治二年（1869）創業、伊澤本家から分家したもの。 明治維新前は町人が屋敷を二つ持つことが許されず、伊澤姓を名乗らず、母方の萩原姓を名乗ったことから「萩」の字を酒銘とした。現在、酒造りをやめ貸しビル業として存在する。		宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 405ページ
18	○	×	豊樂正宗	菅原 甚左衛門 (株式会社 菅原酒店に改組)	宮城	no photo	ほうらくまさむね 明治28年(1895年)仙臺市國分町に造り酒屋として始まった記録があり、酒造りはしていないが、いまま仙台市一番町で日本酒を中心とした酒飯店とスタンドバーを経営して存続する。		宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 411ページ
19	○	×	偉人正宗	合資会社 阿部勘 (阿部勘酒造株式会社へ改組)	宮城		いじんまさむね 創業は享保元年（1716年）とある。創業から塩竈神社のふもとに門を構え営業、現在の銘柄は「四季の松島」、規模は小さいが全量純米の良質な酒造りで現存する。	③	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 427ページ
20	○	×	福釜正宗	株式会社 麴屋酒造店	宮城		ふくがまさむね 酒名は、お釜神社に由来。蔵元は明治14年(1881)創業し味噌と醤油を醸造していた。明治35年から酒造を開始。 現在、酒造は廃業し酒造組合に非加盟だが「しおがま」の銘柄で委託製造した清酒を販売。	② 25ページ	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 441ページ
21	○	×	喜久正宗	株式会社 山和酒造店	宮城		きくまさむね 明治29年（1896年）創業、初代当主・伊藤伊兵衛が家業であった薬屋を酒造屋へ転換。当時の銘柄名が「喜久正宗」であった。 現在7代目が「わしが國」銘柄で酒造りをしている。	①	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 526ページ
22	○	×	桐正宗	合資会社中勇商店 (株式会社中勇酒造店に改組)	宮城		きりまさむね 明治39年創業、一時廃業間際の危機に瀕するが、「地元に愛され、誇れる地酒」をモットーに掲げ、現在は生産量の約80%が県内消費となっている。現在の銘柄名は「天上夢幻」	①	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 528ページ
23	○	×	東華正宗	田中 林兵衛 (株式会社田中酒造店に法人化)	宮城		とうかまさむね 伊達藩政下で呉服商を営んでいた初代が、米の有効利用を期して寛政元年（1789）、酒造業に進出。「東華正宗」の銘柄を販売した。その後、東華正宗を愛飲していた中新田城主・只野図書の命を受け、今の銘柄である「真鶴」に改称された。	①	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 525ページ
24	×	×	奥正宗	早坂 芳雄 (有限会社 早坂酒造店)	宮城	no photo	おくまさむね（おうまさむね） 明治29年創業、黒川郡吉岡町は、奥州街道のかつての宿場町。栄えたところには数件存在した造り酒屋を代表する大店であった。東北自動車道開通により人口減少、町から字になり、造り酒屋は消滅した。		宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 453ページ
25	○	×	袋正宗	千田酒造株式会社	宮城		ふくろまさむね 大正9年（1920）に創業。栗原市金成で農業と麴造りをしていた初代が、鶯沢町の造り酒屋を譲り受けて酒造業を始めた。 「米は遠くからも調達できるし人も移動できる。けれど水だけは動かせない。だから地酒の本質は水」と言い切る。現銘柄は「栗駒山」	③	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 587ページ
26	○	○	不二正宗	大沼酒造店	宮城		ふじまさむね 蔵が創業した正徳2年(1712)から明治初期まで造られていた銘柄を一時的に復刻。 現在のブランド名は「乾坤一」、時たま「乾坤一FUJIMASAMUNE」という新旧並べた銘柄で限定品を発売することがある。	③	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 647ページ
27	○	×	電気正宗	(株) 浅見商店 (株式会社 一ノ蔵へ改組)	宮城		でんきまさむね 大正元年(1912)創業、第一工場(仙台市名掛丁:電気正宗)と第二工場(栗原郡岩ヶ崎:久利駒正宗)の2銘柄が存在した。当時の仙台市内に電燈が灯り始め、大変評判であったことから、酒銘に電気を用いたとある。大変現在の（株）一ノ蔵（銘柄名も同じ）となる。	③	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 426ページ
28	○	×	久利駒正宗		宮城	no photo	くりこまさむね 大正14年、栗原郡岩ヶ崎町に浅見商店第二工場として設立され、栗駒正宗が作られた。		宮城県酒造組合30年史 昭和13年7月 宮城県酒造組合 39ページ
29	○	×	富正宗	佐浦 もと (株式会社 佐浦へ法人化)	宮城		とみまさむね 当初麴製造業を営んでいたが、享保9年（1724）に酒造株を譲り受けて創業。昭和に入り、「浦霞」との2銘柄となり、のち現在の銘柄「浦霞」に一本化した。蔵元は現在も法人化され（株）佐浦で存在し、「浦霞」の酵母は協会酵母12号に指定されている。	③	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 435ページ
30	○	×	白石梅正宗	株式会社渡邊醸造部	宮城		しろいしうめまさむね 明治6年創業以来一貫して品質本位の酒造りに徹し、毎年11月から3月までの年1回醸造方式を行う。地元産酒造好適米の契約栽培米等を使用し蔵王連峰の伏流水と冬の蔵王嵐の寒風という自然の恵みを生かした酒造りをする。現在の銘柄は「蔵王」	③	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 663ページ
31	○	×	岩泉正宗	岩崎 碩治郎 (合名会社寒梅酒造)	宮城		いわいづみまさむね 大正7年（1918）に地主だった岩崎碩次郎が地元産の米から清酒を醸造。大戦による一時中断をへて、昭和31年（1956）に銘柄を「宮寒梅」として酒造りを再開した。平成23年（2011）に東日本大震災で仕込み蔵が全壊したものの、同年12月に蔵を再建した。	③	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 517ページ
32	×	×	稔正宗	高木 清兵衛（菊地屋） (鳳山酒造株式会社)	宮城		みのるまさむね 明治19年(1886)創業、桶買いから始まり、明治29年に味噌と焼酎の醸造免許取得後、36年清酒醸造を開始「稔正宗」を酒銘とした。「鳳山」へ酒銘改め、「寝ないで造った酒は寝ていて売れる」が蔵元の口癖と伝えられている。その後、宮城県酒造組合会長や日本酒造協合理事など歴任するが、残念ながら廃業。	② 25ページ	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 414ページ
33	○	×	白梅正宗	吉岡 吉壽 (株式会社 吉岡屋)	宮城	no photo	はくばいまさむね 明治5年（1872）仙臺市二日町に穀商から転じたとある。最盛期には県内のほか、岩手など県外や東京・横浜にも出荷されたようである。現在、酒造りはしていないが、酒販問屋と飲食店のブランニングで法人が存続している。		宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 421ページ

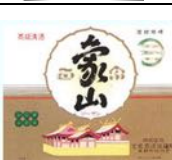
	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
34	○	×	蓬萊正宗	森 つるよ (合資会社 森民総本家)	宮城		ほうらいまさむね 嘉永二年（1849年）より続く。初代は創業前より南部地方伝統の甘酒を仕込み、町を行商しながら、非常に清らかな水が沸く宮城県旧仙台市内（若林区荒町、現在地）を見つけたという。若林区にある唯一の酒蔵。現在の銘柄は「森民」「森乃菊川」	③	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 419ページ
35	×	×	萬石正宗	渡波酒造合資会社	宮城	no photo	まんどくまさむね 大正元年(1912)設立、石巻市の渡波（わたのは）という地域は、昭和30年代初頭まで塩田で繁栄した町であったが、塩田が無くなり急速に町が廃れたという。		宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 625ページに前身の丸安酒造合名会社で記載がある。
36	○	×	桂正宗	相原 傳兵衛 (株式会社 相傳商店)	宮城		かつらまさむね 文政4年（1821年）初代相原傳兵衛が酒造りを創業、副産物の酒粕で野菜を漬け奈良漬けを製造。初めは家庭用だったが、明治30年常磐線が開通すると駅弁の香の物に奈良漬けが使われ評判を呼び製品として販売開始し日本初の農林大臣賞を受賞。現在も（株）相傳商店で奈良漬の名店である。清酒「名取駒」を委託製造で販売。	③	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 478ページ
37	○	×	峰正宗	伊藤 仁一郎	宮城	no photo	みねまさむね 明治中期ごろに酒造を始めたとされる。 亘理町逢隈地区に、伊藤酒店が登記され酒造場の跡がある。いまでも酒店の表示があるが、酒造りをしておらず詳細は不明。		宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 497ページ
38	×	×	荒雄正宗	青沼 吉治 (見龍(株)から宮城ふるさと酒造)	宮城		あらおまさむね 明治7年(1874)、志田郡荒雄村福沼の名家青沼家九代当主が酒造業を開始し、明治40年代(1907年～)には、東北で一番となる3000石を超える醸造を記録し、名実共に名門蔵として知られた。平成19年には、100周年として創業当時の銘柄「荒雄正宗」を復活、実力は確かな蔵であったが、残念ながら令和3年4月に破産した。	③	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 507ページ
39	○	×	平和正宗	浅野 勘九郎 (株式会社 浅勘酒造店)	宮城		へいわまさむね 大正8年(1919)創業、第一次世界大戦(欧州戦争)後であったので、平和を願い酒銘にしたとされる。蔵主の浅野勘九郎は、昭和13年11月から17年10月まで村長を務めた。現在も浅勘酒造店として営業中、いまの銘柄は「酔舞」だが宮城県酒造組合には未加盟。	② 27ページ	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 518ページ
40	○	×	友笑正宗	合名会社三浦酒造店	宮城		ともわらいまさむね 明治38年創業。平成で酒造りを廃業するが、現在も宮城県北の地酒専門店として営業、「友笑正宗」の現在銘は「友笑」で製造委託で銘柄を残し販売元となっている。	② 24ページ	※昭和13年宮城県酒造組合30年史では銘に正宗が付されているが、宮城県酒造史別編、昭和37年(1962)早坂義雄 著では、577ページに正宗を付さずに記されている。
41	○	×	山王正宗	三島 丈三郎 (三嶋酒店)	宮城	no photo	さんのうまさむね 天保5年(1834)酒造創業されている。 加美町には古くから3つの蔵元があり、県内でも有数の酒どころである。この蔵は戦時の企業統合令により酒造りを廃業したが、今も三嶋酒店として営業しており、統合先はいまの寒梅酒造合名会社である。		宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 531ページ
42	×	×	日和正宗	合資会社清野酒造店	宮城		ひよりまさむね 石巻市坂下、昭和13年「宮城県酒造組合誌」に掲載。酒銘は石巻のシンボルである標高60mの日和山に因むと思われる。日和山は眺望の名所として知られ、東日本大震災では「命の山」として知られた。近年、日本酒酵母を使った地ビールが発売され、当時のラベルを復刻。	⑤ https://kahoku-news/articles/20250222khn000006.html?format=slide&na	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 624ページ
43	×	×	牡鹿正宗	本間 良雄 (本間屋)	宮城		おじかまさむね 石巻市立町、昭和13年「宮城県酒造組合誌」に掲載。 昭和40年廃業間際の酒銘は「福の玉」だった。	② 25ページ	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 615ページ
44	○	×	照井正宗	佐藤 金雄 (株式会社さぶん酒店)	宮城	no photo	てるいまさむね 栗原郡金田村、昭和13年「宮城県酒造組合誌」に掲載。 大正15年より創業で、約100年酒屋を営む。酒造はやめているが、現在も「田んぼの中の地酒屋さぶん酒店」として営業中。	⑤	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 571ページ
45	×	×	神生正宗	角田 憲司 (三本木屋酒造店)	宮城		しんせいまさむね 石巻市仲町、昭和13年「宮城県酒造組合誌」に掲載。 東北6県の清酒品評会で特撰賞受賞など輝かしい記録もあるが、2020年1月に登記を閉鎖、廃業	② 22ページ	宮城県酒造史別編 昭和37年(1962) 早坂義雄 著 627ページ
46	○	×	沖正宗	浜田株式会社	山形		おきまさむね 蔵元は、出羽の國、藤泉村沖で五百年もの前から名字帯刀を許された名家であり、慶応二年(1866)酒造業を始めたとある。 会社名に沖正宗を併用してブランド名を残すが、現在は商品名に沖正宗は使っていない。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
47	○	○	澤正宗	古澤酒造株式会社	山形		さわまさむね 天保7年(1836)、東に奥羽山脈の雪深い蔵王、西に朝日山系の霊山月山を望む清流寒河江川のほとりに創業とある。 山形県産酒造好適米「出羽の里」にこだわる酒造りをする。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
48	○	×	東光正宗	株式会社小嶋総本店	山形		とうこうまさむね 安土桃山時代の慶長二年(1597)に創業し、米沢藩の御用酒店として醸造してきた。当主は小嶋彌左衛門を代々襲名し、現在23代目である。天地の恵である米や水に感謝するとともに、それらの個性を尊重した第一級の酒造りを志向する。現在、上酒にのみ正宗の銘を付ける。 やまがたまさむね	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
49	○	○	山形正宗	株式会社水戸部酒造	山形		やまがたまさむね 明治31年(1898)創業、ミネラルを多く含む奥羽山系の伏流水は、平均的な天然水を50として、硬度120の硬い水を使う、これが切れのある酒造りに欠かせない。優しい圧力でしぼる「槽(ふね)しぼり」のため、伝統的道具を使い続けるという。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
50	○	×	会津正宗	豊国酒造合資会社	福島		あいづまさむね 創業天保元年(1830)、地の水、地の米が『地酒の味わい』を産み出し、その上に造り手の想いが込められた一杯が、そこに暮らす人々の日々の喜怒哀楽に寄り添う事で、最高の『地酒』が完成すると考える。 普通酒が会津正宗、上酒を豊國で販売	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
51	○	×	竹正宗	名倉山酒造株式会社	福島		たけまさむね 創業大正7年(1918)当初は「竹正宗」という銘柄で販売されていたが、猪苗代湖畔にある名倉山の美しさから現在の銘柄である「名倉山」へ変更。 ラベルは期間限定の復刻版	③	名倉山酒造歴史 https://nagurayama.jp/pages/38/

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
52	×	×	(奥州) 関の正宗	白河醸造株式会社	福島		(おうしゅう)せきのまさむね 奥州白川は古来「都をば かすみとともにたちしかど 秋風ぞふく 白河の関」と詠われているように、日本三大関所の一つである。その故事・古跡に因み酒銘にしている。酒造廃業後も在庫を自家売りしていた記録が2014年ごろまで見かけるが、現在は宿泊業へ変更している。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)48ページ掲載
53	○	×	たいら正宗	合名会社 丸玉	福島		たいらまさむね 四季を通じて酒の味が平らであるように、願いを込めたことに加え、地名の「平」にかけて、酒銘にしたという。酒造業を廃業、(株)丸玉となりスーパーマーケット・米穀類販売業として会社が存続	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)50ページ掲載
54	○	○	楽器正宗	合名会社大木代吉本店	福島		がくきまさむね 慶応元年(1865年)創業以来、失敗を恐れず酒造りの精度を上げ、妥協を許さずに来た。蔵元の周辺は、明治時代は宮内庁の御猟場として皇族が訪れたという。酒銘は朝香宮が酒を気に入ったことから、従者が「酒造りも楽器を奏でることも、元は同じく神様への捧げ物」と言ったことに由来。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
55	○	○	笹正宗	笹正宗酒造株式会社	福島		ささまさむね 創業1818年（文政元年） 笹の葉は常緑で生命力が強いと言い伝えが銘の由来。昭和54年6月の東京サミットの折、当時のアメリカ大統領カーター氏が、六本木の「串八」にて愛飲し、絶賛して東京を後にした話は有名。	③	笹正宗酒造株式会社 https://www.sasamasamune.com/company.html
56	○	○	星正宗	合資会社 喜多の華酒造場	福島		ほしまさむね 大正八年に「星正宗」の銘柄で創業、戦後「喜多の華」の銘柄で復活した復活蔵。現在は三代目から四代目にバトンタッチの真っ最中で見守ってほしいとある。星正宗は宮城県石巻にも存在したが、両社の関係は不明。	③	喜多の華酒造場 http://www.kitano87.jp/
57	○	×	清水正宗	清水屋合名会社	福島		しみずまさむね 蔵元の詳細は不明。北に「あぶくま山脈」、南に広大な「太平洋」を望む、海の幸・山の幸に恵まれた「いわき」の旨味を醸す蔵とある。清水正宗は製造中止、現在の酒銘は「清世界」。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)52ページ掲載
58	○	○	朝日正宗	檜山酒造株式会社	茨城		あさひまさむね 明治17年(1884)常陸太田市に創業、清らかな里川が流れ、付近の山々の伏流水に恵まれているという。 普通酒を朝日正宗、上酒を千姫、最高級を光園で販売している。	③	蔵元HP https://hiyama.hitachiota.jp/index.html
59	○	×	稲里正宗	磯蔵酒造有限会社	茨城		いなざとまさむね 創業明治元年(1867)、笠間は稲作が盛んで、さらに日本最大の御影石の大地であり、良質の地下水「石透水・せきとうすい」が湧き出ることから、酒造りには絶好の地域とある。普通酒を稲里正宗で販売したが、2022年製造中止。上酒のみを稲里ヘリブランド	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)60ページ掲載
60	○	×	菊冠正宗	金門酒造株式会社	茨城		きくかんまさむね 天保5年に酒造りを始め、一時転業し昭和7年に再開。利根川と小貝川との間に広がり、西に筑波さらには日光連山を望み、遙か富士千秋の雄姿を仰ぎ、広野遠く開け一望草緑の地、まさに形勝の八道に雄視する。代々金左衛門と名乗り、家名の金と門をとり「金門」という銘柄。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)61ページ掲載
61	×	×	白菊正宗	白菊酒造株式会社	茨城		しらぎくまさむね 創業は、文化二年以前といわれる。 白菊酒造から廣瀬酒造へ変更、正宗を冠していたのは相当昔と思われる。写真は戦前のラベル。正宗の中央に白菊	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)63ページ掲載
62	○	○	牡丹正宗	株式会社岡田酒造店	茨城		ぼたんまさむね 日本画家、小川芋銭も愛した竜ヶ崎の地酒 明治 1 7 年創業。昔ながらの普通酒を中心に、地元の人々に愛される酒を販売。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)67ページ掲載
63	○	×	元旦正宗	森島酒造株式会社	茨城		がんとんまさむね 明治2年(1869)創業、武士だった初代が阿武隈山地南端の山々からの伏流水が流れ込み、稲作が盛んで米が豊富に手に入るという立地の良さから、茨城県日立市北部・川尻に蔵を構えた。戦火と東日本大震災で2度蔵を焼失したが、蔵元が杜氏となり「富士大観」の酒銘で復活	③	森島酒造歴史 https://morishima-sake.jp/ja/histories.html
64	○	×	葵正宗	明利酒類株式会社	茨城		あおいまさむね 江戸時代末期の安政年間に、初代が新潟県より酒造り杜氏として水戸に入り創業した加藤酒造店を引き継いだ、現在の銘柄は「副將軍」 蔵元が開発した酵母が「協会10号酵母」とされている。	⑤	
65	○	○	徳正宗	萩原酒造株式会社	茨城		とくまさむね 安政 2 年（1855年）初代藤右衛門から現在で 6 代目となる。清酒「徳正宗」は、「興至れば酒を酌み、興さめればそれを補う、人生の哀歓とともに、酒ありてそれを酒徳という」から命名したと伝えられている。	⑤	日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和39年456ページ
66	×	×	国光正宗	星野酒造株式会社	栃木		こっこうまさむね 天保元年（1830）創業、国の光となるように願いを込めて酒銘としたとされる。越後杜氏による酒造りをしていたが廃業に至り、法人はガソリンスタンド経営に転業したが、令和7年3月に閉鎖登記されている。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)72ページ掲載
67	○	○	晃山正宗	北関酒造株式会社	栃木		こうざんまさむね 北関酒造設立の1973年当初、新潟の杜氏たちと共に酒造りをするところから、弊社の歴史は始まりましたとある。比較的新しいが、栃木最大の蔵元。	⑤	
68	○	○	十一正宗	森戸酒造株式会社	栃木		じゅういちまさむね 元の名は、十一と書いてサムライと呼び、さむらいまさむねと表記された。「一」甘からず、「十」辛からず、飲み飽きしない「旨口酒」を求め、酒造りを続けてきた。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
69	○	○	雄東正宗	杉田酒造株式会社	栃木		ゆうとうまさむね 明治6年(1873)創業の蔵元。日光山系の伏流水を使用。 創業当時は「優等正宗」、品評会で8回連続優等賞を受賞した際、税務署長から関東の英雄と言われたことから、現在の「雄東正宗」に改銘	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)75ページ掲載

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
70	×	×	四ツ目正宗	株式会社吉村商店	栃木		よつめまさむね 栃木県の真岡(もおか)市にかつてあった蔵元。屋号は天満屋と呼ばれ「四ツ目正宗」「笹嬉」の2銘柄を醸造していた。2015年ぐらいまでは法人があったことが確認できている。廃業後の跡地はスーパーマーケットになっている。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
71	○	×	赤城正宗	近藤酒造株式会社	群馬		あかぎまさむね 赤城山の麓に位置するため「赤城」として発売。後に「赤城正宗」に改名し、三代目の時代に月を好んでいたことから名月赤城山にあわせ、「赤城山」に改名	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)77ページ掲載
72	○	×	浅間正宗	浅間酒造株式会社	群馬		あさまさむね 創業明治5年(1872)、現在の銘柄名は「秘幻」、冬場の想像以上の寒さの中で浅間杜氏によるお客様が喜ぶ酒造りをする。この銘柄は、さびれた飲食店の看板にわずかながら残っている。 ふんぶくまさむね	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)77ページ掲載
73	○	×	分福正宗	分福酒造株式会社	群馬		文政8年創業といわれる。 昔の蔵が分福茶釜で有名な館林の茂林寺付近にあったことが名前の由来。現在は、「分福」にリブランド、常温保存を前提とした正宗は造っていない。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)82ページ掲載
74	×	×	黒松正泉	森本酒造株式会社	群馬		くろまつまさいずみ 元禄6年(1693年)創業、赤城山の伏流水を使用した、やや辛口の味わいだったと記録されている。2006年までは酒造りしていたようだが、現在は廃業。跡地は更地になっている。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
75	○	×	駒正宗	聖酒蔵株式会社	群馬		こまさむね 天保12年(1841)創業、初代が生糸と質で財を成したのち、酒造りを始めたところ。現在の銘柄は「聖」ひじり。七代目が赤城山西南麓の自然水で酒造りをする。	⑤ https://www.sakeno.com/meigara/2954/	日本食糧新聞 1995年9月6日7921号
76	○	○	旭正宗	内木酒造株式会社	埼玉		あさひまさむね 安永4年(1744)創業、さいたま市内最古の酒蔵であり、全国新酒鑑評会でたびたび金賞受賞する酒であった。残念ながら2021年で自社製造を中止するが、委託製造でお酒の提供を続けている。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
77	○	○	葵吾妻正宗	株式会社小山本家酒造	埼玉		①あおいあずまさむね(上) ②みやまさむね(下) 文化5年(1808)創業、いつの時代でも脈々と受け継がれた確たる企業精神があり、その精神を守ってきたからこそ、現在があるという。地元で採れた良質なお米を使用して地下180mから湧き上がる清冽な天然水で醸したとのこと、両方ともやや辛口でふくよかとあり、違いは不明。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
78	○	○	宮正宗	株式会社小山本家酒造	埼玉			③	小山本家酒造商品案内 https://www.koyamahonke.co.jp/lineup/miyamasamune.html
79	×	×	渦巻正宗	玉井酒造株式会社	埼玉		うずまさまさむね 埼玉県鴻巣市にかつてあった酒蔵 さびれた飲食店の看板がわずかながらに埼玉県内に残っている。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)84ページ掲載
80	○	×	喜勇正宗	横田酒造株式会社	埼玉	no photo	きゆうまさむね 文化2年(1805年)創業。 製造銘柄は、日本橋・浮城・喜勇正宗とあるが、喜勇正宗は現在製造中止。		
81	○	○	金大星正宗	丸山酒造株式会社	埼玉		きんたいほしまさむね 明治6年(1873)創業、味噌醤油の販売から、明治9年に醸造施設を借り受け酒造りを始めたところ。酒銘の由来は、相撲から酒造りの金星が取れるようにと願い名付けたという。新一万円札の渋沢栄一で盛り上がる深谷の蔵元。「青淵 渋沢栄一翁大吟醸」を発売など盛り上がる。	③	
82	×	×	黒松正宗	日本酒造株式会社	埼玉		くろまつまさむね かつて埼玉県比企郡に存在した蔵元、現在は廃業。 代表銘柄が「万代黒松正宗」	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)89ページ掲載
83	○	○	武甲正宗	武甲酒造株式会社	埼玉		ぶこうまさむね 蔵元は宝暦三年創業、平成の名水百選にも選ばれた武甲山の伏流水が蔵元の水場2か所に沸き、この水は蔵見学に来た人が自由に持ち帰りできる。秩父を代表する清酒で、スッキリとした喉ごし。やや辛口。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
84	○	○	稲花正宗	稲花酒造有限会社	千葉		いなはなまさむね もともと美濃の土岐家に仕えていた武家が約450年前に庄屋として東浪見の地に移住。 そして、米が豊作になったことをきっかけとして、酒造を開始。地元の漁師達に振る舞ったその酒は、大変評判が良かったと伝わる。	③	稲花酒造有限会社 https://inahana.co.jp/
85	×	×	ふさ正宗	合名会社石野商店	千葉		①ふさまさむね(上) ②くろしおまさむね(下) 1819年創業とあるが現存しない。 漢字表記は千葉県を示す上総・下総の総から「総正宗」 「黒潮正宗」については発売された形跡を見るが記録が残っていない。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)97ページ掲載
86	×	×	黒潮正宗		千葉	no photo			
87	○	○	東魁正宗	小泉酒造合資会社	千葉		とうかいまさむね 寛政5年(1793年)鹿野山の麓に創業。現在は蔵主自らが杜氏を務め、澄んだ空気と清涼な水をたたえた湊川のほとりという環境のもと、自ら育てた米、鹿野山山系の仕込み水、そして熟達した技により、古き良き伝統を守りながら、新しい時代を見据えた酒造りに努めている。	③	小泉酒造インターネット販売 https://www.sommelier.co.jp/?pid=34159500
88	○	○	甲子正宗	株式会社飯沼本家	千葉		きのえねまさむね 蔵元の飯沼家が推定400年前に酒々井に住み着き、御神酒を造りはじめ、元禄年間(1688-1704)に余剰米を消費するための酒造りを始めたという。地元千葉県で普段使いの晩酌用として幅広く愛飲されている、ふくよかな香りとすっきりとした洗練された味わいの本格旨口酒。	③	飯沼本家歴史 https://www.iinumahonke.co.jp/about/history

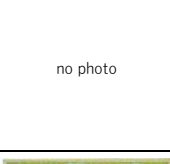
	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
89	○	×	粧善正宗	株式会社馬場本店酒造	千葉		こうぜんまさむね 蔵元は、天和年間（1681～1683）に大和国（奈良県）より佐原の地に渡り、粧屋を起したとある。酒造を始めたのは五代目、時代は天保十三年（1842年）ということだ。 蔵元最古の酒として「粧善」銘で販売	③	日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和39年449ページ
90	×	×	高砂正宗	高砂酒造株式会社	千葉		たかさごまさむね かつて昭和の時代まで存在した蔵元	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）99ページ掲載
91	○	○	吉寿正宗	吉崎酒造株式会社	千葉		きちじゅまさむね 寛永元年（1624年）創業といわれ、千葉県では最古の蔵である。かずさの名水「久留里の水」と厳選した酒米で造られる清酒。ラベルに小さくカタカナで「キチジュマサムネ」と書かれている。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
92	○	○	鯉正宗	東灘醸造株式会社	千葉		かつおまさむね 慶応3年創業の蔵元、鯉の水揚げ高が全国有数の漁港であることから命名、千葉の米と千葉の水で造り、地産地消ではなく「千産千消」の酒と名乗る。新酒を「初ガツオ」、前年以前の酒を「戻りガツオ」としてバージョン分けの販売が面白い。	③	東灘酒造商品紹介 https://azumanada.net/products/azumanada/index.html
93	○	×	トウケン正宗（東薫正宗）	東薫酒造株式会社	千葉		とうくんまさむね 文政8年（1825年）に創業。創業者は、日本地図を作りあげた偉人 伊能忠敬の実家で、酒造業を営む名主である伊能家に弟子入りして酒造りを習得したと伝えられている。現在の銘柄は「東薫」	⑤	
94	○	×	正元正宗	合資会社中田商店（梅一輪酒造株式会社）	千葉		しょうげんまさむね 大正元年創業、昭和59年9月大蔵省の指導を受けて、酒造業近代化第一号として、酒銘「若緑」をもつ（有）若林酒造店（創業明治元年）と合併、現在も梅一輪酒造（株）として酒銘「梅一輪」を醸造する。	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）94ページ掲載
95	×	×	鷹不二正宗	高藤酒造有限会社	千葉		たかふじまさむね 創業の高梨家は、明治になってから農家から酒造りに転じたという。酒銘は酒造りを始めた当主の高梨藤治郎に由来し「高藤」から、酒造4代目が「鷹不二」に変えた。代々村長と農家3足の草鞋を履きながら酒造りをしてきたというが、町村合併で大多喜町となり、この蔵元も無くなってしまった。	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）96ページ掲載 日本醸造協会誌第77巻第11号813ページ
96	○	×	山太正宗	太田本家（株式会社太田商店）	東京		やまたまさむね 明治10年酒の卸問屋として創業、清酒製造もおこなう。第二次世界大戦で酒造りを中断と記録されている。今も日本酒と焼酎の卸問屋として営業。	⑤	
97	○	○	金婚正宗	豊島屋酒造株式会社	東京		きんこんまさむね 「金婚正宗」は明治天皇の金婚式をお祝いする願いを込めて銘名されました。明治神宮と神田明神、東京二大神社の御神酒として納められている唯一のお酒。ラベルは「金婚」だけが表示され、ネックに「金婚正宗」のシールが貼られる	⑤	豊島屋酒造金婚の紹介に正宗と記載 http://toshimayasyuzou.co.jp/?page_id=23
98	○	○	丸眞正宗	小山酒造株式会社（株式会社小山本家酒造）	東京		まるしんまさむね かつて東京都北区赤羽に存在した1878年創業の蔵元。本物を使う「まるまる綺麗なお酒」が名前の由来、現在は小山酒造の遠縁にあたる小山本家酒造が銘柄を引き継ぐ。	③	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）101ページ掲載
99	×	×	多満正宗	川崎酒造有限会社	神奈川		たままさむね 明治20年から酒造りの向ヶ丘遊園の近くにあった蔵元。第二次大戦中の企業整備令により、周辺の三軒の蔵元が合同してできた蔵元だった。神奈川には丹沢水系の水を使う蔵元が多いが、ここは多摩川水系の水を使用することが酒銘の由来と思われる。	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）104ページ掲載
100	×	×	有泉正宗	合資会社有泉酒造店	山梨		ありいずみまさむね 昭和の時代までは存在した。蔵元の姓に因み、桃源の地に程よく適した水に恵まれ、泉のごとく芳醇を放つとされる。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
101	×	×	甲州正宗	腕相撲酒造株式会社	山梨		こうしゅうまさむね ①腕相撲酒造製造（上） ②武の井酒造製造（下） 腕相撲酒造1924（大正13）年創業、武の井酒造1865（慶応元）年操業、どちらも現在は造られていない。	⑤	
102	○	×	甲州正宗	武の井酒造株式会社	山梨		残念なことに腕相撲酒造は2021年に後継者不在で酒造りをやめ、翌年廃業。武の井酒造の甲州正宗は、2022年まで販売されていることが確認されているが現在同社の商品一覧にはない。	⑤	
103	○	○	榊正宗	株式会社横内酒造店	山梨		さかきまさむね 明治5年創業の蔵元、南アルプス前衛の楡形山の山麓に有り、豊かな自然の中にある。仕込み水は楡形山中腹から湧出ている伏流水。冬の厳しい寒さと綺麗な空気に恵まれ、厳選された酒米で高品質の伝統的な酒造りを貫いている。	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）142ページ掲載掲載
104	○	○	甲陽笹正宗	笹本酒造株式会社 大冠酒造株式会社	山梨		こうようささまさむね（上段） わりびしまさむね（下段） 明治10年甲府市で大澤酒造店が創業、創業時からの銘柄として割菱正宗が使われた。割菱は甲斐武田家の紋章であり、甲斐を代表する酒と言えは割菱と言われたが、結婚式など祝いの席で、割れる＝別れると嫌われたことから、約40年前に銘柄を「大冠」に改銘、2007年南アルプス市へ移転とあり、2003年に廃業した笹本酒造の施設を譲り受けたとされる。	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）142ページ掲載掲載
105	○	×	割菱正宗	株式会社大澤酒造店 大冠酒造株式会社	山梨			②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）144ページ掲載掲載

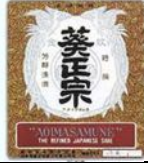
	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
106	×	×	登美正宗	有限会社石川酒造店	山梨		とみまさむね 天保元年(1830)創業、酒銘は甲府が一視千望のもとに見え、登るほど美しい村と言われた登美村に因む。コクのある甘口だったと言われる、かつてあった石川酒造店の銘柄、酒造り廃業のあと、蔵の建物はギャラリーとして使われている。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)143ページ掲載掲載
107	○	×	開運正宗	井出醸造店	山梨		かいうんまさむね 江戸中期1700年頃に醤油醸造から創業。江戸末期1850年頃に、蔵元16代目が富士山からの清冽な水を利用して清酒醸造を開始。皇女和宮の婚姻と同時期に製造を始めた為、それに因み「開運」と命名、その後「開運正宗」として長期間親しまれたが、昭和60年より「甲斐の開運」を正式名称としている。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)141ページ掲載掲載
108	○	○	鮎正宗	鮎正宗酒造株式会社	新潟		あゆまさむね 明治8年(1875)創業、豪雪地の蔵元で酒造りに使う湧き水が毎時5トンも湧き出る。酒名は、昭和初期にこの蔵元にほど近く保養地として有名な妙高高原の赤倉に滞在された京都伏見の若宮博義殿下から、この地で鮎釣りをされた折りに戴いたとの由来。	③	鮎正宗酒造 https://ayumasamune.com/
109	○	○	お福正宗	お福酒造株式会社	新潟		おふくまさむね 明治30年(1897)創業、腐造を防ぐことを可能にしたことで醸造業界に大きな旋風を巻き起こした。米をたっぷり使用し、あえて旨みののる味わいを貫いている。その他銘柄に「山古志」などがある。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
110	○	○	朝日山(正宗)	朝日酒蔵株式会社	新潟		あさひやま(まさむね) 天保元年(1830年)創業、千寿・萬壽など「久保田」で知られる。言わずと知れた新潟を代表する酒蔵だが、ラベルをよく見ると中央に「正宗」とある。「朝日山」の特別本醸造だけラベルに「正宗」が記される。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
111	○	○	スキー正宗	株式会社武蔵野酒造	新潟		すきーまさむね 大正までは越山正宗を銘とする。日本のスキー発祥の地、妙高にある蔵元のため、戦前まちおこしでスキーを名乗る一大ブームがあり、銘を変えた。第二次大戦中カタカナが敵性語とされたため「寿亀正宗」と漢字表記した。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)113ページ掲載掲載
112	○	×	スノボ正宗				すのぼまさむね スキー正宗発売100周年を記念して、衝撃の新シリーズ スキー正宗との味の違いは、超端麗の純米吟醸酒をブレンド、ほのかな吟醸香で爽やかさをプラス。	蔵元 H P https://www.musashino-shuzo.com/news/3432/	武蔵野酒造スノボ正宗発売のお知らせ https://www.musashino-shuzo.com/news/3432/
113	○	×	スケボ正宗				すけぼまさむね 甘口の吟醸酒、スキー・スノボ・スケボ飲み比べをと蔵元からの P R スノボ・スケボとも記念商品のため、パリオリンピックでスケボが入賞すれば発売されるかも知れない。	新潟の地酒クラブ https://www.niigata-sake.net/sukebomasamune/	新潟の地酒クラブ スケボ正宗の紹介 https://www.niigata-sake.net/sukebomasamune/
114	○	×	サーフ正宗				さーふまさむね 東京オリンピックの正式種目にサーフィンが選ばれたことを記念して準備されたお酒で、夏向きの酸味を感じる味わい。	蔵元 Instagram https://www.instagram.com/p/CC1jD2TD2KO/	武蔵野酒造Instagram https://www.instagram.com/p/CC1jD2TD2KO/
115	○	○	初日正宗	長谷川酒造株式会社	新潟		はつひまさむね 創業天保13年(1842)、あなたの日々を照らし想う酒でありたいということで、大正時代から続く銘柄、信濃川の伏流水を水源とする柔らかな水と厳選された酒米を、長年蓄積された技術を駆使し毎冬酒を仕込んでいる。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)116ページ掲載
116	○	○	不二正宗	瀧沢酒造合名会社 苗場酒造株式会社	新潟		ふじまさむね 正式名称は「苗場山」佳撰「不二正宗」、新潟県産米と苗場山の伏流水を使用、米のうま味を生かしたさわやかなお酒です。社名変更にともない蔵元の主要銘柄は「苗場山」	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
117	○	○	緑川正宗	緑川酒造株式会社	新潟		みどりかわまさむね 緑川正宗コト通称"熱爛正宗"は、大正時代に新潟で流行った醸造技法四段仕込みのお酒で四段目に餅米を使用。一盃が二盃、三盃と盃の進む旨し熱爛専用のお酒	③	新潟県酒造組合 緑川酒造紹介 https://www.niigata-sake.or.jp/kuramoto/midorikawa/
118	○	○	佐州正宗	尾畑酒造株式会社	新潟		さしゅうまさむね 明治25年(1892)創業の佐渡島の蔵元で、代表銘柄は「真野鶴」佐渡産の酒造好適米「五百万石」、そして新潟限定栽培酒米「越淡麗」などを中心に使用。	③	新潟の地酒ガイド 佐州正宗の紹介 https://www.niigata-sake.net/sashuumasamune/
119	○	×	吉兆正宗	加藤酒造株式会社	新潟		きつちようまさむね 1864年の創業以来、飲んで頂くお客様の側に寄り添って酒造りを行ってきた。手軽に買えて、気軽に楽しめる最高の晩酌酒を目指すからこそ、品評会用のお酒は造らず、毎日飲んで美味しい酒造りに力を注いでいる。	③	
120	○	○	新潟正宗				にいがたまさむね 1864年創業の蔵元、代表銘柄は「無窮」(むきゅう)、新潟正宗は舌の肥えた杜氏たちが晩酌酒として呑む酒。すっきりした味とある。この蔵元から、吉兆正宗も販売	③	
121	○	×	美雪正宗	諸橋酒造株式会社	新潟		みゆきまさむね 弘化4年(1847年)創業で、新潟県長岡市(旧栃尾市)で酒造りを行ってきた。随分前にリブランドしており、現在の銘柄名は「越の景虎」が有名	③	
122	×	×	舟江正宗	株式会社小松原醸造場	新潟		ふなえまさむね 新潟駅からほど近い沼垂(ぬつたり)にあった蔵元。法人の登記が2022年に抹消されている。沼垂地区は酒蔵や味噌蔵などが今も数軒残り、伝統的な越後発酵文化を今に伝えている。跡地はアパートになっていて酒蔵があった面影が無い。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)117ページ掲載
123	○	○	アルプス正宗	合名会社亀田屋酒店	長野		あるぶすまさむね 松本が育んだ日本酒の伝統技法「寒造り」の技法。機械造りには出せない「手造り」の味を追求するため、必要最低限の機械化はしない。	③	

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
124	○	×	ウサカメ正宗	合名会社亀田屋酒造店	長野		うさかめまさむね 美山錦を使用した純米吟釀。 中取り原酒とは一味違う旨みを持ち、飲んで楽しいお酒を目指すとして期間限定商品として売り出された。	③	
125	○	○	姨捨正宗	長野銘醸株式会社	長野		おばすてまさむね 姨捨は万葉の時代より月の名所で知られた、芭蕉も恋する月の都です。湧き水と棚田に囲まれた当地で弊社が創業したとある。三百有余年、創業時のままの蔵で、昔ながらの手造り純米を醸し続けています。	③	
126	○	○	桂正宗	株式会社酒千蔵野	長野		かつらまさむね 天文9年（1540年）創業。 信州・長野県で最も長い歴史と伝統を誇る酒蔵です。 全国的にも7番目の歴史を持つ酒蔵で、川中島合戦の折り「武田信玄公」が千野の酒を召し上げられたことでも有名です。	③	蔵元HP https://shusen.jp/goods.html#05
127	○	○	信州ねこ正宗	株式会社舞姫	長野		ねこまさむね 近江酒造株式会社（滋賀県東近江市）が製造・販売していた『近江ねこ正宗』の後を継ぎ、株式会社舞姫が猫の日に、猫好きのための日本酒『信州ねこ正宗』として、2023年2月22日より発売	③	
128	×	×	カルカヤ正宗	横綱酒造株式会社	長野		かるかやまさむね 江戸後期の創業、当主は代々瀬兵衛を名乗り醸造する。 醸造季節は10月から3月初旬、用水は干曲川の堆積による砂地内の伏流水、酒は辛口になりやすく高井方面では好評だったという。 戦後は銘酒も「横綱」に改められ、現在は襲名も酒造も廃止している。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
129	○	○	北光正宗	株式会社角口酒造店	長野		ほっこうまさむね 明治2年（1869年）創業。新潟県との県境、冬の間3メートル以上の雪に覆われる日本有数の豪雪地域長野県飯山市に所在する県内最北端の蔵元。	③	
130	○	○	象山正宗	株式会社宮坂酒造店	長野		ぞうざんまさむね 明治期に酒造業を起こし昭和の大戦争時代も休蔵することなく続いた松代唯一の蔵元。呼び名は「ぞうさん」だが酒銘は、江戸時代後期の朱子学者で松代藩士の佐久間象山に由来。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)157ページ掲載
131	○	○	勢正宗	株式会社丸世酒造店	長野		いきおいまさむね 丸世酒造店伝統の「もち米熱掛四段仕込み」。 銘の由来は、鯉の滝登りとは、流れの激しい滝を鯉が登るように勢いが良いこと、転じて立身出世や栄達などを表す言葉でもあります。中国の故事がもと。	③	
132	○	○	養老正宗	株式会社遠藤酒造場	長野		ようろうまさむね 創業元治元年（1864年）、須坂藩御用達の酒蔵として創業し、以後、藩主への献上酒を納めた。以来、初代蔵元の強い信念でもあった「旨い酒造り」を代々受け継ぎ、常に進取の気性で挑戦を続けている。	③	
133	○	○	米川正宗	高沢酒造株式会社	長野		よねかわまさむね 創業は1902年、長野県で一番小さな町、小布施にある蔵元、全国でも数少ない女性杜氏が酒造りを行う。さっぱりして雑味を感じない酒だそう。ラベルに小さく「マサムネ」がカタカナ表記されている。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)156ページ掲載
134	○	×	本金正宗	酒ぬのや本金酒造株式会社	長野		ほんきんまさむね 宝暦6年(1756)酒株を譲り受け創業。屋号は志茂布屋(しもめのや)から会社名に「ぬのや」とつく。今の諏訪2丁目のあたりには13軒の造り酒屋があり、その内の1軒である。現在は正宗を付けずに「本金」を酒銘としている。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)154ページ掲載
135	○	○	力正宗	東洋醸造株式会社 合同酒精株式会社	静岡		ちからまさむね 大正9年（1920年）創業の東洋醸造(株)が源流、酒造事業が旭化成に譲渡されたのち、オエノンホールディングスの合同酒精(株)に銘柄譲渡された。合成清酒。	③	合同酒精HP
136	○	○	白隠正宗	高嶋酒造株式会社	静岡		はくいんまさむね 文化元年（1804年）漁師の網元が個人で酒造業を始め、今では沼津を代表する蔵元。 平成24年から全量純米に転換、醸造酒は作っていない。	③	
137	○	○	ラヂオ正宗	株式会社 志太泉酒造	静岡		らちおまさむね 明治15年創業。藤枝の地主の分家として、余剰米を有効に利用する役割を担っていたことから、酒造りを始めた。仕込むお米も当たり前のように地元米で、地産地消を目指すのではなく、地産地消しかなかった。酒銘は二代目が村で最初にラジオを買ったことを記念したという。	③	
138	×	×	瑞華正宗	株式会社田中酒造場	愛知		ずいかまさむね 明治30年創業の愛知県一宮市の蔵元。我が国は「瑞穂」の国ともいわれ、清酒はその精華であることを意味する。2009年ごろまで酒造が確認できるが、2014年あたりには廃業している。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
139	○	×	酔泉正宗	山田酒造株式会社	愛知		すいせんまさむね 明治4年創業、木曽川の伏流水を使い、伝統的な山廃仕込みの酒造りを行う。現在の銘柄は「酔泉」	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)181ページ掲載
140	○	○	豊田正宗	豊田酒造株式会社	愛知		とよだまさむね 明治23年(1890)、挙母町で肥料商を起業した寺田栄次郎は、米穀商を営んだ後、大正12年(1923)、現在の豊田市喜多町に挙母醸造を創業とある。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)183ページ掲載
141	○	○	名古屋正宗	甘強酒造株式会社	愛知		なごやまさむね 文久2年（1862年）創業みりんを造り続けて150余年、濃尾平野で収穫される豊富なもち米を原料とし、縦横にはるグリークによる便利な舟運を利用してみりんの製造を始めたのが最初	③	

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
142	○	○	平勇正宗	渡辺酒造株式会社	愛知		ひらいさみまさむね 織田信長生誕の地とされる愛知県愛西市の蔵元。家族で全てのお酒を手造りにこだわり、和釜に甑（こしき）を置いてお米を蒸し、麴（こうじ）造り、酒母から醪（もろみ）の仕込みに至るまで手作業で大事に造っている		
143	×	×	蘇東正宗	森酒造株式会社	愛知		そとまさむね 愛知県一宮市の木曽川駅付近にかつてあった蔵元。木曽川の水を昔から蘇りの水と呼ぶことから、木曽川の東に位置する蔵元のあった地域が蘇東と呼ばれ酒銘の由来となる。木曽川の伏流水を使った酒造りが盛んであった。酒見神社と呼ばれる酒造りの神様がこの地に残る。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)181ページ掲載
144	○	×	姫正宗	福井酒造株式会社	愛知		ひめまさむね 明治45年(1912)創業、旧大垣新田藩陣屋跡の家紋入りの井戸で酒を仕込み、福井酒造場を創業したことに始まる。現在の銘柄は「四海王」。日本酒造りに適した、酒米(夢吟香)と、日本一の水質にも選ばれた豊川の水をふんだんに使える恵まれた環境のもとで、居心地の良い味の酒を求めている。	③	
145	×	×	柿正宗	五明酒類醸造株式会社	岐阜		かきまさむね かつて岐阜県大垣市にあった蔵元の銘柄。柿の名産地のためこの名前が付いたと思われる。ずいぶん後に酒銘を「五明」に代えたが、廃業となった。2006年ごろまで確認されている。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)161ページ掲載
146	×	×	鳩吹正宗			no photo	はとふきまさむね 蔵元醸造の他銘柄で名前が出されている。県内の鳩吹山に酒銘は由来すると思われるが、県西部大垣の蔵元が可児市にある鳩吹山にどのように関係するか、廃業した今となっては不明である。ただ、この山は全体が民有地であるため、過去に関係したのかもしれない。		全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)161ページ掲載
147	○	○	神代正宗	有限会社大坪酒造店	岐阜		じんだいまさむね 天保13年創業以来、伝統ある手づくりの酒の味を大切にしている。「甘口の飛騨娘」と「辛口の神代」が地元でも二本柱として愛飲されている。	③	
148	○	○	久壽玉正宗	有限会社平瀬酒造店	岐阜		くすだまさむね 創業年代は定かではないが、菩提寺の過去帳には元和9年(1623)より記録され、約400年、15代続き今日に至っている。大正期に灘では清酒という新しい酒ができて大変好評との話を聞き、辰馬酒造に見学し、丹波より杜氏を招聘して飛騨で初めて清酒を造った。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)160ページ掲載
149	○	×	清松正宗	大塚酒造株式会社	岐阜		きよまつまさむね 明治19年から『清松正宗（きよまつ まさむね）』という酒を造っていた。廃業の危機から6代目が跡を継ぎ、現在は「竹雀」の銘で酒造り。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)161ページ掲載
150	○	○	達磨正宗	合資会社白木恒助商店	岐阜		だるまさむね 年ごとに味わいの異なる酒を醸しては古酒とするため熟成をさせるが、実際に販売できるようになるまでには10年以上かかる。「古酒といえば達磨正宗」という評価、現在では日本のみならず海外でも高い評価を受けている。	③	蔵元HP
151	○	○	斐太正宗	川尻酒造場	岐阜		ひだまさむね 江戸末期、天保10年（1839）創業。1970年代には糖類、調味液の使用、桶売り（大手の下請）を全廃し以降、コクのある酒質にこだわり、数年の貯蔵期間を置く熟成古酒に特化して今日に至る、飛騨で唯一、個人経営の蔵元	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)164ページ掲載
152	○	×	蓬莱正宗	有限会社渡辺酒造店	岐阜		ほうらいまさむね 酒造りを始めたのは明治3年(1870)、5代目から、生糸の商いで京都に旅した折に口にした酒の旨さが忘れられず、自ら居するこの地で旨い酒をとの一心で酒造りを始めた。現銘柄に正宗は付けていない。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)165ページ掲載
153	×	×	大安正宗	大安酒造株式会社	岐阜		だいあんまさむね かつて存在した蔵元の銘柄。 詳細は不明。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)162ページ掲載
154	×	×	松正宗	合名会社松野酒店	岐阜		まつまさむね 岐阜市の北側に隣接する高富町（現在の山県市）にかつてあった蔵元の銘柄。2015年ごろまで記録があるが、現在は廃業。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)165ページ掲載
155	○	○	醴泉正宗	玉泉堂酒造株式会社	岐阜		れいせんまさむね 1806(文化3)年、美濃国養老に創業。この地を訪れた元正天皇が「醴泉者美泉(れいせんとは、おいしい水の出る泉のこと)」と述べられたことに酒銘は由来。「透明感」「純粋さ」「引き算の美学」という理想を持ち仕込まれている。東条産（特A地区）山田錦35%精白の純米大吟醸を中汲みして、品格のある味と上品で豊かな香り、すっきりとした余韻を実現している。米・酵母・精白のごだわりで純粋さと品格を兼ね備え、麴蓋という伝統的で手間のかかる製麴により丁寧な造りが実感できる。	④	https://www.gyokusendo.jp/product/1
156	○	×	銀盃正宗	割田屋	岐阜		ぎんぱいまさむね 戦前の銘柄。三重県にかなり近い岐阜県の海津町に今もある酒問屋、本家が灘にあったようで、ラベルに醸造元は灘の本家とある。桶買いをして自社ブランドで販売していたようだ。現在も酒の小売りとガソリンスタンドの経営で会社が存続。	⑤	
157	×	×	クツワ正宗	宮崎酒造株式会社	富山		くつわまさむね かつて富山県滑川市にあった蔵元。 蔵は本陣を改装した造りで登録有形文化財の指定を受け、観光名所となっている。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)121ページ掲載
158	○	×	関正宗	林酒造場	富山		せきまさむね 江戸時代、加賀藩最大の関所“境関所”に武士として勤めた創業者が、寛永3(1626)年、傍らに酒を造ったのが最初とされる。「加賀藩境関所跡に銘酒あり」と言われ、歴史ある蔵元が多い富山県でも最古の酒蔵	③	

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
159	○	○	兼六正宗	株式会社金谷酒造店	石川		けんろくまさむね 石川の米どころ、加賀平野の中心に位置する白山市で、明治二年より酒造りを営んでいる。	③	
160	○	○	手取川正宗	株式会社吉田酒造店	石川		てとりがわまさむね ラベルに「正宗」と謳っているが、メーカーHPには「手取川」としか書かれていない。地域の風土と伝統文化に培われた手取酒を継承し、高品質・高品格な酒造りとある。	③	
161	○	○	登代正宗	合資会社山本酒造本店	石川		とよまさむね 創業以来続く銘柄。やや甘口の味わいの普通酒。原料米は五百万石。仕込み水は白山の伏流水。蔵元の「山本酒造本店」は明治元年(1868)創業。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)129ページ掲載
162	○	×	能登正宗	鳥屋酒造株式会社	石川		のとまさむね 昔の銘柄で現在は「池月」銘柄のみ。 中能登で杜氏さんのほかに5人と言う小所帯での手造り。 能登半島地震に見舞われたが、令和6年1月26日元気に蔵出し！	⑤	日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和39年511ページ
163	○	○	福正宗	株式会社福光屋	石川		ふくまさむね 1625年（寛永二）年創業の金沢で最も長い歴史を持つ酒蔵。契約栽培米と、霊峰白山の麓より百年の歳月をかけて辿り着く清冽な仕込み水、先端の裏づけを得ながら進化し続ける蔵人たちの伝統技術により、2001年に純米蔵を実現。	③	株式会社 福光屋の酒 福正宗 https://www.fukumitsuya.co.jp/sake/fukum asamune/
164	×	×	気比正宗	敦賀酒造有限会社	福井	no photo	けひまさむね 蔵元は創業1624年だったが、2005年に酒造りをやめ、その後廃業した。北陸新幹線の敦賀延伸に伴い、地元有志が復活を望んでいる。		日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和39年515ページ
165	×	×	橘正宗	為国酒造合資会社	福井	no photo	たちばなまさむね 福井市に、かつてあった蔵元の銘柄 昭和年代まで「越白鳳」の銘柄で確認できている。		日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和40年度版445ページ
166	○	×	羽二重正宗	常山酒造合資会社	福井		はぶたえまさむね 江戸時代末期に「常祝」の銘で酒づくりを始め、その後、福井名産品の高級絹織物・羽二重の名を冠した「羽二重正宗」が生まれ、絹のようにのど越しなめらかな清酒として広く地元で親しまれたが、リブランドで現在は「常山」銘柄となる。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
167	×	×	楠正宗	鈴鹿酒造株式会社	三重	no photo	くすまさむね 東海道の宿場町鈴鹿の楠地区は、かつて醸造業が盛んで蔵元が複数存在した記録がある。		日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和39年505ページ
168	×	×	富士正宗	平和酒造株式会社	三重		ふじまさむね 明治8年(1875)創業、平成4年度全国新酒鑑評会で金賞受賞。原料米は山田錦、うこん錦など。仕込み水は自家井戸水とあるが、現在は廃業。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
169	○	○	伊勢正宗	丸彦酒造株式会社	三重		いせまさむね 慶應3年（1867年）に創業した現在で7代続く酒蔵、蔵元はこの地の地主で、小作から地代として受け取る年貢米が豊富にあったことから酒造業に参入した。	③	
170	○	×	三重正宗	元坂酒造株式会社	三重		みえまさむね 江戸時代末期である1805年(文化2年)現在地に造り酒屋として創業、現在6代目。リブランドで創業者の名を冠した「八兵衛」の銘柄で製造販売	③	
171	○	×	鷹正宗	大西正之助酒造 (木屋正酒造合資会社)	三重		たかまさむね 下段「鷹一正宗」の前身と言うべきか蔵元は同じ。鷹正宗から鷹一正宗となった経緯はわからない。	⑤	日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和39年507ページ
172	○	×	鷹一正宗				たかいちまさむね 文政元年(1818年)に初代が造り酒屋を譲り受け、屋号を以前材木商であった「木屋正」と改め継承したとある。鷹一正宗は2016年に終売、2005年に6代目が立ち上げた「而今」が現在有名である。	③	
173	○	○	名水正宗	細川酒造株式会社	三重		めいすいまさむね 創業嘉永参年（1850年）。地元三重県産の山田錦・神の穂・三重の夢などの酒米と養老山系の自家井戸水だけを使用した無添加の全量純米酒	③	
174	○	×	四ツ目正宗	青地酒造有限会社	滋賀		よつめまさむね 蔵元の近くに臨済宗永源寺派の総本山永源寺があり、東海道の宿場水口もあることから、周辺は古くから栄え、周囲の山々からの伏流水と近江の米により、東近江は酒造が盛んとなった。	⑤	日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和39年483ページ
175	○	○	鈴正宗	矢尾酒造株式会社	滋賀		すずまさむね 江戸時代後期1791年に創業し、200年以上の歴史をもつ矢尾酒造の代表銘柄「鈴正宗」。神社の「鈴」と名刀の代名詞である「正宗」から、凛々と鳴りキレのよいお酒という意味を込めて名づけられた	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)201ページ掲載
176	○	×	道灌正宗	太田酒造株式会社	滋賀		どうかんまさむね 太田道灌を遠祖とする蔵元、酒造りは明治7年から。 現在は正宗は使用しておらず「道灌」銘で製造販売。	③	太田酒造ホームページ 遠祖を偲んで https://www.ohta-shuzou.co.jp/sake/sake_brewery/dohkan-gura/
177	○	×	近江ねこ正宗	近江酒造株式会社	滋賀		おうみねこまさむね 原料である穀類をネズミが食い荒らすことから、蒸留所には猫の姿があったと言い伝えから、猫が酒造りを護ってくれたということに感謝する意味で、猫をデザインしたラベルの日本酒が造られた。2016年8月8日の世界ネコの日に、近江ねこ正宗は日の目を見るが、残念ながら蔵元は、2023年6月末をもって、106年の酒造りを終了した。	③	近江ねこ正宗HP https://omi-nekomasa.net/

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
178	○	×	鳩正宗	草野酒造有限会社	滋賀		におまさむね 天保3年（西暦1832年）創業、城下町長浜にかつて存在した蔵元、琵琶湖は鳩の湖とも呼ぶことから、琵琶湖の畔で醸造した酒の意味で命名、現在、酒造りは廃業したが会社は存続、ウイスキーメディア『BAR10』を運営している。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)203ページ
179	○	○	槍正宗	富田酒造有限会社	滋賀		やりまさむね（しちほんやり） 創業は天文3年（西暦1534年）頃、近江(滋賀)と越前(福井)の境目、雪深い木之本町の蔵元、「槍正宗」とは現銘柄の「七本槍」の別名、北大路魯山人が長浜に逗留の折、愛飲したとある。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)掲載
180	○	×	御幸正宗	岡村多内本家 (株式会社 岡村本家)	滋賀		みゆきまさむね（上） 金亀正宗（下） 安政元年(1854)創業、彦根藩主井伊大老より酒造りを命じられ8代岡村多内が創業。鈴鹿山系の豊富な名水が湧き、良質の近江米の産地であり、伊吹山からの寒風と酒造りに大変恵まれており、168年にわたりこだわりの日本酒を造り続けている。現在の銘柄は「金亀」	⑤	日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和32年度版 402ページには、代表銘柄として「御幸」銘で掲載されている。
181	○	×	金亀正宗					⑤	日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和39年度版 484ページには、代表銘柄として「金亀」銘で掲載されている。
182	○	×	びわ湖正宗	株式会社 福井弥平商店	滋賀		びわこまさむね 寛永年間1748～1751年に創業、270年にわたり、近江の良質な米、比良山系の伏流水（甘みのある柔らかな水）を使用し、「酔うための酒ではなく、味わうための酒を」を信条に酒造りを行う。「萩の露」が通常銘柄。「びわ湖正宗」は限定酒として販売された。	③	
183	×	×	濱正宗	加田酒造有限会社	滋賀		はまさむね 豊臣秀吉が今浜を長浜に改名して城を築いたことに由来する。廃業のため蔵元の情報はないが、長浜市内にいまも小売りの酒販店として営業している。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)204ページ掲載
184	×	×	京正宗	大同酒造株式会社	京都		みやこまさむね（または、きょうまさむね） 京丹後（京都府の日本海側）の安政5年(1858年)創業の蔵元。京正宗は2009年ごろまで確認された。その後「梅門若竹」銘柄を醸造するが2018年に廃業、会社解散。	⑤	
185	○	○	キンシ正宗	キンシ正宗株式会社	京都		きんしまさむね 天明元年(1781年)古都・京都に生まれ、酒処・伏見に育って二百有余年。カナ表記の「キンシ正宗」と漢字表記の「金鶏正宗」のブランド分けがされている。京都盆地の地下には「京都水盆」と呼ぶ琵琶湖の水量に匹敵する水がめがあり、気が遠くなるような年月をかけて濾過され、伏見に流れ着く水を使用している。本社内に日本の名水百選の御香宮の井戸に沸く「御香水」と同じ水脈の井戸がある。	③ キンシ正宗HP	http://www.kinshimasamune.com/
186	○	○	金鶏正宗		京都			③ キンシ正宗HP	
187	×	×	鶴正宗	鶴正酒造株式会社	京都		つるまさむね 創業1891年、谷酒造本店として創業した伏見の蔵元。1989年より、伏見銘酒協同組合の一員として、同社は蔵元と職人が誇る最高の製造技術で成功をおさめていた。日本酒類販売の傘下に入り、2020年ごろまで委託醸造で販売されていたが、2021年に事業を中止した。	② 211ページ	国土交通省JTAデータベース https://www.mlit.go.jp/tagengo-db/en/R1-01270.html
188	×	×	都正宗	京都酒造株式会社 相綴酒造株式会社	京都		みやこまさむね 1707年（宝永4年）創業、2008年廃業。 宝永年間に富士山の片側が大爆発し宝永山ができた年に、京都と奈良の中間の山城で酒造りを始めたとする。京都と奈良を往来した都人に親しく飲まれたことから「都正宗」と命名したとある。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
189	○	×	伏見正宗	都鶴酒造株式会社	京都	no photo	ふしみまさむね 伏見に生まれて165年、醸造家の間で売買された蔵元だが、現在も「都鶴」ブランドで存続。「伏見正宗」は蔵元紹介で保有銘柄として紹介されている。		全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)にその他銘柄で掲載
190	○	×	福寿正宗	京都第一酒造有限会社	京都		ふくじゅまさむね 会社の歴史は不明だが、いまもクラフトビールを醸造し、清酒と同じ米麹を使った「西陣ビール」を造っている。 西陣織で有名な京都の町中で、機織りの音が聞こえる蔵と呼ばれた。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)213ページ掲載
191	×	×	罐詰正宗	発売元 濱口興業株式会社 販売元 合資会社 奥實之助商店	京都		かんづめまさむね 戦争中に軍用携行缶で出荷されていたお酒。灘の生一本とあるが、戦時中の米不足で清酒にアルコールを加えた「増産酒」と言われたものと思われる。発売元の濱口興業は、丸安濱口の社名とともに、戦時召集猶予者を認める軍納入の缶詰工場であった。	筆者が現物所有	
192	○	○	艶正宗	中尾酒造株式会社	大阪		つやまさむね 大阪府茨木市に現存する唯一の蔵元、明治2年創業。 北摂は室町時代から400年以上酒造りがされていたが、残るのはこの蔵元のみ。艶正宗は微発砲のにごり酒。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)219ページ掲載
193	○	○	浪花正宗	浪花酒造有限会社	大阪		なにわまさむね およそ300年前の享保年間に操業、手作りに徹し、心のこもった酒造りにこだわる。 大阪らしく「たご焼きに合うお酒」などがある。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)220ページ掲載
194	×	×	文正宗	田中酒造株式会社	大阪		ふみまさむね 蔵元の情報は全くないが2005年ごろに廃業。 同じラベルで甘口と辛口があるため三増酒混和の普通酒のみ手掛けられていた模様。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)218ページ掲載
195	×	×	成功正宗	池尻酒造株式会社	大阪		せいこうまさむね 明治43年創業、酒造業の成功を願って命名。 岡山県産アケボノで仕込んだサッパリした口当たりの酒とある。 枚方市にあった蔵元、1979年に廃業	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)219ページ掲載

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
196	×	×	桐正宗	大阪第一酒造株式会社	大阪	no photo	きりまさむね 池田の蔵元、創業不明だが廃業が昭和49年(1984)とされる。北摂池田に産業として酒造が始まるのは、室町末期から安土桃山時代と言われ、猪名川の良質な伏流水と山間部の良質な酒米が容易に入手できたことによるとされる。		大阪広告史データベース 萬年社コレクション
197	○	○	談山正宗	西内酒造	奈良		たんざんまさむね 明治10年に桜井市の紅葉で有名な談山神社の一の鳥居のそばで創業、談山神社と同じ場所に妙楽寺という大きなお寺があり、このお寺で僧坊酒が造られていたことから始まる。にぎり酒。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
198	○	○	吉野正宗	美吉野醸造株式会社	奈良		よしのまさむね 1912年創業の蔵元、創業より上質な酸の出る蔵ということで、自然と発酵が進む多湿な山林地帯に蔵がある。主銘柄は「花巴」。新しい取り組みとして「吉野正宗」を醸造。	③	
199	○	○	花巴正宗		奈良		はなともえまさむね 創業1912年、銘柄名は花巴正宗だがラベルは「花巴」となっている。	③	
200	×	×	鞆正宗	西田酒造株式会社	奈良	no photo	ともまさむね 明治5年（1872年）創業、蔵をかまえる都祁（つげ）は、奈良県有数の米の産地であり、最大の寒冷地。古くから酒造りに適した土地として知られ、『日本書紀』にもこの地の酒が登場するが廃業した。		
201	×	×	谷正宗	株式会社谷口酒造店	和歌山		たにまさむね 嘉永二年(1849)創業、昭和初期にかけて「紀ノ川」「功鶴」「寶玉」の酒銘、販路は大阪と和歌山と記されている。地元では評価された酒だったとある。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)252ページ掲載 和歌山酒造組合史 昭和9年
202	×	×	轡政宗	常庄酒造合資会社	和歌山		くつわまさむね 創業は1780年頃、農閑期に酒造りをしたことに始まり、1900年のパリ万博に出品された有名な酒。和歌山県庁が県外のお土産にお酒を使う場合に指定した。川上酒と言われ、紀ノ川上流で造られ、高野山の宿坊などで般若湯して飲まれた。2005年まで記録は残っているが廃業。	⑤	初桜酒造（株）HP 酔人日(商品名)に常庄酒造について掲載 https://hatsusakurashuzo.com/products/
203	×	×	帝冠正宗	有限会社中尾酒造店	和歌山	no photo	ていかんまさむね 慶応元年（1846年）創業、海草郡野上町に蔵があった。現在は廃業。		日本釀界年鑑（日本釀界新聞社）昭和32年度版 399ページに掲載
204	○	○	御代正宗	島本酒造場	和歌山		みよまさむね 県内でも知る人ぞ知る蔵元のひとつ。創業は1919年、海南市に蔵は存在。現在の蔵元は御年80歳、ご夫婦仲睦まじく蔵を守り続けています。蔵元曰く「酒造りは別として、営業が下手で、今では近所の方々が買いに来てくれる程度になってしまいました」とのこと。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
205	○	○	大福正宗	中野BC株式会社	和歌山		だいふくまさむね 1932年に醤油醸造から創業した和歌山の蔵元。創業者が独学で醸造を習得して起業した。代表銘柄は「長久」で、「大福正宗」は日常遣いと業務用のバック専用酒となっている。	③	
206	×	×	錦正宗	楠原商店	和歌山		にしきまさむね 和歌山県串本町の楠原商店が灘から桶買いした酒を小分けして売る際の酒銘である。灘の御影が蔵元であるが何処かは不明。楠原酒店に社名変更するも廃業。いまま立派な木造建物が現存している。	⑤	
207	×	×	葵正宗	葵酒造有限会社	兵庫		あおいまさむね 養父町にかつて存在した蔵元、現在は廃業。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)223ページ掲載
208	○	×	泉正宗	泉酒造株式会社	兵庫		いずみまさむね 宝暦年間(1751～1764年)に創業、昭和40年代に関西では雪村いづみのマンボソングで「おひとつーいーかーがあー」とよくラジオコマーシャルされていた。阪神淡路大震災で蔵は壊滅的な打撃を受けるが、見事に復活。現在は「仙介」「琥泉」「泉姫」の3銘柄。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
209	×	×	東自慢正宗	本辰酒造株式会社	兵庫	no photo	あづまじまんまさむね 辰馬財閥の一つで、当家の当主は半右衛門を名乗る。1915年に酒造業の資金繰りに窮し、酒造免許と土地建物一切を小西酒造に売却、小西酒造が本辰酒造を設立した。大正年間は万石蔵で灘五郷では7番目の酒造量であった。		灘五郷酒造一斑 西宮税務署 大正8年12月27日発行 67ページ
210	○	○	扇正宗	今津酒造株式会社	兵庫		おうきまさむね 創業は宝暦元年(1751年)、灘五郷の今津郷の蔵元。近江(滋賀県)の日野で創業、明治に東灘に進出。正宗印の小印であった「扇」を頭につけて登録。末広がりの商売繁昌、互いの幸福を、広く世の愛飲者と共に願い、喜び合えればとの思いを込めて命名されている。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
211	○	○	菊正宗	菊正宗酒造株式会社	兵庫		きくまさむね（上段） ほんかのうまさむね（下段） 創業は万治2年(1659年) 材木商として活躍していた嘉納治郎太夫宗徳が、当時、先端の製造業であった酒造業に手を広げ、本宅敷地内に酒蔵を建て、酒造業を本格的に開始、18世紀末、江戸送りのいわゆる「下り酒」の人気が高まり、造った酒のほとんどを“下り酒”にしていた本嘉納家の酒は、最高品質の酒として江戸っ子にこよなく愛された。嘉納の姓については、約600年前、御影沢の井の水で酒を造り、これを後醍醐天皇に献上したところ、ご嘉納になったので嘉納の姓を賜ったとのいい伝えがある。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
212	○	○	本嘉納正宗	菊正宗酒造株式会社	兵庫			濱田屋商品紹介 https://jizakeya.co.jp/bin/search2.cgi?NO MBER=2133a &OP=&SE=1	

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
213	×	×	金正宗	株式会社松尾仁兵衛商店	兵庫		きんまさむね 酒造業は元文5年(1740年)に開業。当時多くあった正宗と名のつく酒の一角を占めた。明治17年（1884年）に商標登録。灘五郷の魚崎郷に蔵があったが、阪神淡路大震災で蔵が損壊、平成20年(2008年)に廃業した。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
214	○	○	櫻正宗	櫻正宗株式会社	兵庫		さくらまさむね 寛永2年(1625)年に創釀、伊丹で米を作り余剰米で酒を造ることから始まる。江戸中期、江戸送りの船便の利便性から西宮と魚崎に進出。この西宮の井戸が宮水の元祖となる。試しで徹底的に精米して作った酒が江戸で一番高値がつき、清酒といえば正宗と評判になり、数ある「正宗」銘の元祖となる。	③	櫻正宗株式会社 H P 酒造の軌跡 https://www.sakuramasamune.co.jp/history/
215	○	○	大黒正宗	株式会社安福又四郎商店	兵庫		だいこくまさむね 1751年（宝暦元年）、初代が現在の御影郷を切り開き、酒造業を開始。灘の下り酒として水戸藩へ御用酒を納める。明治45年/大正元年「大黒正宗（だいこくまさむね）」を商標登録。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)231ページ掲載
216	○	×	褒紋正宗	白鷹株式会社	兵庫		ほうもんまさむね 『酒は褒紋、芸者は新橋』明治から大正、昭和にかけて東京の料亭でそう謳われたお酒。料亭や一部の高級ホテルにしか提供されず、小売もされないため、もはや幻の酒といっても過言ではなかったが、2022年にこの銘柄は販売終了した。	⑤	灘五郷酒造一班 西宮税務署 大正8年12月27日発行 68ページ
217	×	×	大平灘正宗	井澤酒造株式会社	兵庫		たいへいなだまさむね かつて存在した蔵元。永遠に天下泰平を願い「大平」とした。灘は海辺、正宗は清酒の代名詞で、寄せ集めて酒銘としたようだ。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)231ページ掲載
218	×	×	蜻蛉正宗	摂陽酒造株式会社	兵庫		とんぼまさむね 戦前に存在した今津（西宮）の蔵元。大正9年から造石高の記録がある。ほかに「摂陽一」の銘柄を使っていた。	⑤	灘酒造業界の趨勢 大正15年 首藤 永敏 著
219	○	○	千鳥正宗	岡村酒造場	兵庫		ちどりまさむね 古くは、「山草正宗」と銘じていたが、大正10年、当主が飲み口の軽やかなほろ酔いの酒にちなんで、「千鳥正宗」に商標を改める。明治の中頃、現三田市域には、14軒の造り酒屋があり、最盛を誇っていたが、その内の1軒、当酒造場だけが、今なお酒造りを続けている。	③	伊丹酒造組合史 1969.12 伊丹酒造組合発行 419ページ
220	○	×	百合正宗	江井ヶ島酒造株式会社	兵庫		ゆりまさむね ト部家初代は三木城への兵糧輸送に活躍した。酒造りは豊臣家滅亡後にト部次郎兵衛を名乗り始めたとされる。5代目ト部八右衛門の弟兵吉が独立して自ら酒造業を営み事業を拡大し、明治21年に資本金3万円で江井ヶ島酒造株式会社を設立した。	⑤	江井ヶ島酒造株式会社 HP江井ヶ島酒造の歴史 https://www.ei-sake.jp/history.html
221	×	×	巴正宗	松岡酒造株式会社	兵庫		ともえまさむね かつて存在した赤穂の蔵元	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)233ページ掲載
222	×	×	鶴正宗	ツル正宗酒造株式会社	兵庫		つるまさむね 西宮郷の蔵元。ツル正宗の商標は、白雪に吸収された本辰酒造が明治・大正・昭和に亘り使用して、一時は小西酒造が商標を保有した。昭和36年ツル正宗酒造設立とともに商標権も移転したが、阪神淡路大震災で蔵が倒壊、廃業した。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)233ページ掲載
223	×	×	鼓正宗	安藤酒造株式会社	兵庫		つつみまさむね 西灘で大正14年度7,500石の酒造量と記録がある。 大正15年（1926年）法人設立、明石市の蔵元だが廃業。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)掲載
224	×	×	桃正宗	本ト部酒造株式会社	兵庫		ももまさむね 江井ヶ島酒造の本家にあたる。 酒銘は桃太郎に因み力強くありたいと願うとともに、日本を代表する桜が綺麗な桃色の花を咲かすことから、桃は日本人の心を表すとして、いつまでも日本とともに発展するように願いを込めて命名したとある。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)268ページ掲載
225	×	×	天啓正宗	ト部酒造株式会社	兵庫		てんけいまさむね 廃業のため情報はないが、本ト部・ト部・江井ヶ島の各酒造の社長の苗字がト部姓で関係があるものと思われる。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)233ページ掲載
226	×	×	牡丹正宗	若井源左衛門	兵庫	no photo	ぼたんまさむね 灘酒では西の横綱と言われる蔵元であった。大正初期に酒造高1万石を超える万石蔵4件の1つであった。幻の銘酒と呼ばれ、大みそかには近隣に無料でふるまわれた伝説が残る。		灘五郷酒造一班 西宮税務署、大正8年12月27日発行、67ページ 名古屋大学「人事興行録」データベース https://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who8-24859
227	×	×	鯉正宗	辰馬利一	兵庫	no photo	かつおまさむね 辰馬一族の分家で南辰馬家と言われる。辰馬家は1662年に酒造業を始める。明治初頭に分家が進み、北辰馬家、南辰馬家、松辰馬家、柳辰馬家などが生まれた。南辰馬家が1943年に本家と合併するまで使用した銘柄、辰馬本家は「白鹿」の醸造元として知られる。		灘五郷酒造一班 西宮税務署 大正8年12月27日発行 67ページ
228	○	○	名刀正宗	田中酒造場	兵庫		めいとうまさむね 天保6年（1835年）、兵庫県姫路市広畑に酒蔵を開き「名刀正宗」を造り始めた。どんなに日照りが続いても「広の田中の井戸は決して枯れない」と言われ、その井戸水は今もなお脈々と湧き出ている。	③	名刀正宗HP https://www.sake-tanaka.com/
229	×	×	書寫正宗	瀬渡酒造有限会社	兵庫		しゅしゃまさむね 姫路城のお膝元であることから、揖保川の伏流水を使い、多くの蔵元が存在する。書寫は地名で西国観音霊場の書寫山圓教寺に因む、残念ながら廃業、跡形もない。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)230ページ掲載
230	×	×	成功正宗	西中酒造場	兵庫		せいこうまさむね 大正5年創業、戦時中は蔵元二代目の出征などで、酒造りの中断などの苦労を経て、戦後復活したものの廃業。	⑤ 伊丹酒造組合史 1969.12 434ページ	伊丹酒造組合史 1969.12 伊丹酒造組合発行 419ページ

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
231	○	×	羽束正宗	三田酒造場有限会社	兵庫		はつかまさむね 明治3年創業、大正5年に二代目が承継したところから、この酒銘を用いる。但し、主業は酒小売のため酒造は廃業した。酒銘はその優美さで三田を代表する羽束山に由来。	⑤ 伊丹酒造組合史 1969.12 429ページ	伊丹酒造組合史 1969.12 伊丹酒造組合発行 416ページ
232	○	×	金盃菊正宗	金盃酒造株式会社	兵庫		きんぱいきくまさむね 明治23年(1890年)創業、灘の蔵元だが灘酒造組合には加盟していない。「金盃菊正宗」は大正6年に商標を譲り受けたが、大正15年・昭和2年・昭和31年・平成11年、菊正宗酒造との裁判により、商標無効とする判決が出ている。	⑤	金盃酒造株式会社HP https://www.kinpai.co.jp/about/kien/
233	○	○	三朝正宗	藤井酒造合資会社	鳥取		みささまさむね 三朝温泉の温泉街に酒蔵を構える。三徳山の麓にある酒蔵。三朝神社のお神酒はこのお酒で、季節ごとの様々な行事や三朝温泉の祭り「花湯まつり」で使用されています。	③	
234	○	×	打吹正宗	小川合名会社から譲渡 松井酒造合名会社	鳥取		うつぶきまさむね 江戸時代後期から明治期にかけて、鳥取県倉吉市の小川家は酒造により財を成したとある。もとの酒銘「久米川」を1910年に打吹正宗に改名と記録が残されている。2005年に銘柄を大阪の松井合名会社に譲渡、会社は松井酒造合名会社として残るが、2007年に日本酒造りからは撤退、現在もウイスキーとジンの製造で蔵元は存続。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)256ページ掲載
235	×	×	陽氣正宗	陽気酒造株式会社	鳥取		ようきまさむね 鳥取県八頭郡河原町は、千代川の伏流水に恵まれ、良質な米どころでもあり、大庄屋や庄屋によって酒造りが行われ、江戸時代には10軒以上の酒蔵があったそうだ。かなりの辛口酒らしく廃業間際は「鬼びっくり」という辛口酒が確認できる。廃業。	⑤	日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和32年度版 449ページに掲載
236	○	×	玉江正宗	玉江酒造有限会社	島根		たまえまさむね 玉江酒造有限会社、1978年酒造業から撤退、酒の卸売りに転業し、会社の名称は変わるが、酒蔵建物も現存する。		日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和32年度版 452ページに掲載
237	○	×	春日正宗	合資会社石州酒造	島根		かすがまさむね 元の銘柄保有は、1968年に廃業した杭瀬酒場と記録されており、現蔵元に譲渡されている。今の蔵元の創業は江戸中期1730年。現在は11代目が杜氏として酒造りに励む。秀峰青野山の伏流水を使用し、人が人の手を使う昔ながらの手法で津和野の地酒華泉を未来へと育み続けている。現銘柄は「華泉」（かせん）	①	日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和32年度版 452ページに掲載
238	○	○	高正宗	隠岐酒造株式会社	島根		たかまさむね 隠岐に酒造りの技術を残し、さらに5つの蔵元が共に生き残る手段として、隠岐酒造を設立。代表銘柄は「隠岐誉」日常遣いに「高正宗」がある。	③	隠岐酒造株式会社HP 商品紹介 https://okishuzou.com/item/258/
239	○	○	簸上正宗	簸上清酒合名会社	島根		ひがみまさむね 1700年代前半、江戸時代中期の元号「正徳」の頃に創業したと語り継がれている。奥出雲の酒	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
240	×	×	矢瀧正宗	清水酒造場	島根		やたきまさむね 明治39年（1906）創業のこの小さな酒蔵も現在は残念ながら廃業 戦国期には大森銀山守備の為に大内氏によって矢滝城がこの地の北西隅に築城されていることから命銘されたとされる。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
241	○	○	ヤマサン正宗	株式会社酒持田本店	島根		やまさんまさむね 明治10年（西暦1877年）造り酒屋の始まり。四代目を大蔵省直営の醸造研究所に学ばせ、新式速醸方式を導入したとある。	③	株式会社 酒持田本店 会社紹介 https://www.sakemochida.jp/company/
242	○	×	大社正宗	大社正宗醸造合資会社	島根		たいしゃまさむね 出雲大社の御神酒として造られた。蔵元では現在酒造をしておらず、同じ出雲市にある明治4年創業の板倉酒造に委託、現在の銘柄名は「神遊」（かみあそび）	③	日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和32年度版 451ページに代表銘柄「神遊」で会社名が掲載
243	×	×	吉備正宗	有限会社川上庄七本店	岡山		きびまさむね 天保10年(1839)創業の蔵元、仕込み水は高梁川の伏流水ですっきりした後口との評判であったが、惜しまれながら廃業。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)271ページ掲載
244	×	×	香正宗	香本醸造合資会社	岡山		かおりまさむね かつて存在した岡山県勝田郡勝田町の蔵元である。現在は廃業。 「みんなが飲む酒 香正宗」のポスターを発見。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)270ページ掲載
245	○	○	三光正宗	三光正宗株式会社	岡山		さんこうまさむね 「山田錦」「雄町」を中心に使用。 山田錦、雄町については地元新見市にて契約栽培したものを使用。 美しい神代川の水を使用		日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和32年度版 443ページに掲載
246	×	×	御殿正宗	株式会社角野酒造本店	岡山		みどのまさむね かつて存在した蔵元、現在は廃業。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)273ページ掲載
247	○	○	鯨正宗	平喜酒造株式会社	岡山		くじらまさむね 1928年創業の蔵元 米は岡山の自然がはぐくんだ備前米の「雄町」や「あけぼの」を使用、水は蔵の北にある遥照山の花崗岩質に磨かれて酒造りに適した水を使用		
248	○	○	巴福正宗	熊屋酒造有限会社	岡山		ともえふくまさむね 1716年、庵谷伊七により創業、裏山より湧きでた地下水を100%使用する。ブランドは現存、従業員3名で頑張っている。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
249	×	×	平和正宗	下山酒造合資会社	岡山		へいわまさむね かつて津山にあった蔵元、現在は廃業。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)279ページ掲載
250	×	×	牡丹正宗	吉野酒造株式会社	岡山		ぼたんまさむね 明治17年(1884)創業の美作の蔵元、現在は廃業。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)279ページ掲載
251	○	×	長久正宗	嘉美心酒造株式会社	岡山		ちょうきゅうまさむね 瀬戸内海の花の小さな町、寄島町にある渚の蔵。大正2年(1913)創業、現在の銘柄名は「嘉美心」(かみこころ)。戦後も急速に普及した「三増醸法」による甘口酒(いわゆる「三増酒」)の路線とは一線を画し、「米旨口」を追求する信念を曲げることはなかった。	③	
252	×	×	桐正宗	赤澤半蔵	岡山		きりまさむね 備前米雄町の産地である、岡山県浅口市にかつて存在。 備中赤澤家という清和源氏の流れをくむ地主の関係と思われる旧家。 余剰米で酒造りをしたと思われる。	⑤	
253	○	×	一正宗	中国醸造株式会社 株式会社サクラオブルワリー ンドディスティラリー	広島		いちまさむね 大正7年(1918年)創業の蔵元、現在は社名変更を行い、日本酒「弥山」(みせん)のほか、ウイスキーや焼酎などを醸造。	③	
254	×	×	賀茂正宗	高橋酒造株式会社	広島		かもまさむね 福山市にかつて存在した蔵元、旧蔵は現在飲食店に使われている。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
255	×	×	菱正宗	久保田酒造株式会社	広島		ひしまさむね 1868年創業、太田川の伏流水が家伝の菱形の井戸から湧き出る水を使用、広島県産八反錦を磨き上げ、杜氏の力技により長期低温発酵させたキレのある旨さが特徴だったが、2020年に廃業、酒蔵は解体された。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒ラベルコレクション掲載
256	○	×	三吉正宗	アシードブリュー株式会社	広島		みよしまさむね 1866年(慶応2年)創業の蔵元、この銘柄の源流だが、現在は福岡県朝倉市の「朝倉酒造」が販売	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒さベルコレクション掲載
257	○	○	藤井正宗	藤井酒造株式会社	広島		ふじいまさむね 江戸時代末期文久三年(1863年)創業、良質の仕込み水に恵まれた竹原の地を酒造りに適した土地と見極め、酒造業を興したとある。現在の当主で5代目、自分たちにしかできない酒造りを続けている。	③	
258	×	×	家納喜正宗	丸亀酒場(家納喜酒造)	広島		やなきまさむね 明治34年(1901)に丸亀小六が酒造業を始めたと記録されている。 広大な酒造場であつたらしいが、火災が遠因で平成12年(2000)に残念ながら廃業している。	⑤	日本醸界年鑑(日本醸界新聞社)昭和32年度版435ページに銘柄名「家納喜」で掲載
259	×	×	一〇正宗	一〇酒造株式会社	山口		いちまるまさむね 萩の清らかな水と優良酒米にて仕込み、「手造りの技」を生かした独自の味をご賞味くださいとある。大吟醸は、選りすぐった酒造好適米(山田錦)を35%精米した日本酒の中で最高だったが、2020年解散した。	①	独立行政法人 酒類総合研究所 平成14年頃の酒さベルコレクション掲載
260	○	×	光栄福正宗	木下酒造株式会社	山口		こうえいふくまさむね かつて存在した銘柄。 現在では酒造はされていない様子で、メインの業務は酒類の卸業をしている。	⑤	日本醸界年鑑(日本醸界新聞社)昭和32年度版444ページに掲載
261	×	×	友栄正宗	大丸酒造	山口		ともえまさむね 蔵元初代の名前から「友」1字を取り、友が栄えるように命名したとあるが廃業。 かつて存在した萩の蔵元	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)304ページ掲載
262	×	×	春洋正宗	河野酒造有限会社	山口		しゅんようまさむね 明治39年創業、地域が漁業で栄えていたので、春の海(洋)のように、穏やかな日々と、大漁を願い酒銘にしたという。酒造りは廃業したおり、ぬる爛で美味しいと評が残っている。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)302ページ掲載
263	○	○	琴弾正宗	川鶴酒造株式会社	香川		かわづることひきまさむね 明治24年(1891)創業、観音寺市にある蔵元。上品な香りが爽やかに広がり、味に伸びがありながら、中心に深みがあることにより、米の旨味が感じられ飲み飽きしないスッキリとしたキレのある酒	③	宮武酒店(高松市)琴弾正宗紹介ページ http://sake-ml.juno.weblife.me/products/detail/kawaturu-kotobikimasamune.html
264	×	×	刀正宗	佐野酒造株式会社	徳島		かたなまさむね 徳島は、吉野川など豊富な水源があり、酒造りは盛んである。 やや甘口が徳島らしい酒と言われるが、この蔵元については、情報が残っていない。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)310ページ掲載
265	×	×	花の正宗	花の正宗酒造株式会社	徳島		はなのまさむね ラベルが残るが、この酒造所については情報が無い。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)313ページ掲載
266	×	×	山木正宗	三好共栄株式会社	愛媛		やまきまさむね 愛媛の日本酒。蔵元の「三好共栄」は明治31年(1898)創業。現在は廃業。蔵は西予市三瓶町朝立にあった。	②	全国日本酒ラベル名鑑 (監修：日本酒造組合中央会)327ページ掲載
267	○	○	山丹正宗	株式会社八木酒造部	愛媛		やまたんまさむね 江戸時代、幕末の足音が聞こえ始めた1831年(天保2年)に、愛媛県今治市にて創業	③	山丹正宗HP https://www.yamadan.jp/

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
268	○	○	雀正宗	雪雀酒造株式会社	愛媛		すずめまさむね 大正4年（1915）創業、創業時の酒銘が雀正宗であったが、昭和6年に当時の首相 犬養毅の名づけにより「雪雀」に変更した。 販売時期限定で雀正宗が復活することがある。	③	雪雀酒造商品紹介 https://yukisuzume.com/%E9%9B%80%E6%AD%A3%E5%AE%97/
269	○	○	石鎚正宗	石鎚酒造株式会社	愛媛		いしづちまさむね 大正9年(1920)創業、霊峰石鎚山のふもとで杜氏制を廃止して、家族で酒造りを行う。代表銘柄は「石鎚」正宗は純米大吟醸につけられた酒銘。石鎚山からの清冽な湧き水を使い、3杯目から旨いと感じる酒造りをしているという。	③	石鎚酒造公式サイト 石鎚正宗紹介 https://www.ishizuchi.co.jp/#iteminfo
270			銅山正宗	近藤酒造株式会社	愛媛		どうざんまさむね 明治11年創業の蔵元、別子銅山ゆかりの酒「銅山正宗」、米は新居浜産で収穫された「松山三井」、仕込み水には平成の名水百選として愛媛県で唯一選ばれた「つづら淵」と同じ水系のものを使用している。	③	近藤酒造株式会社 銅山正宗 https://kondousyuzou.com/%E9%8A%85%E5%B1%B1%E6%AD%A3%E5%AE%97%E3%80%8720%EF%BD%8D%E3%BD%8C/
271	○	○	土陽正宗	松尾酒造株式会社	高知		どようまさむね 明治6年創業、創業時に井戸を掘ったため当初銘柄は「松の井」。その後土佐の表現である土陽（土陽新聞等）にちなんで「土陽正宗」松尾にちなんで「松翁」、平成には「山田太鼓」の銘柄も追加。	③	高知県酒造組合HP 松尾酒造紹介 https://tosa-sake.jp/brewery09/
272	○	○	三吉正宗	朝倉酒造株式会社	福岡		みよしまさむね 1933年創業の蔵元、銘柄の源流は広島県だが、アシードグループから分離独立したことにより、三吉正宗を譲渡してもらった。	③	日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和32年度版438ページに、カタナ表記「ミヨシ正宗」で掲載
273	○	×	勝正宗	勝屋酒造合名会社	福岡		かつまさむね 宗像の沖ノ島の蔵元 蔵元名に由来するが、かつての銘柄名で、現在は「沖ノ島」銘柄のみ。 蔵元のトタン壁に掲げた看板に銘柄の名残が見られる。	⑤	
274	×	×	瑞穂錦正宗	津留崎酒造本店	福岡		みずほにしきまさむね 定かでないが、久留米市の津留崎姓で酒造関係者が当家のみのため推定、酒造りは廃業しており、現在は蔵建物を使って名水で育てた鰻屋がある。	⑤	
275	○	○	鷹正宗	鷹正宗株式会社	福岡		たかまさむね ホークスが福岡に本拠を置くことで、「勝鷹」銘柄を発売するなどあやかっただが、残念ながら2023年に民事再生手続きを申請して、新たなスポンサーの下で再建中	⑤	https://www.takamasamune.com/
276	×	×	成務正宗	増田泰豊酒造場	福岡		せいむまさむね 廃業、福岡県京都郡苅田町与原にあった以外の情報が無い。 かつての所在地周辺に酒蔵らしきものは何も残っていない。	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）338ページ掲載
277	○	○	天真雪正宗	大地酒造合資会社	大分		ゆきまさむね 明治18年(1885)創業、後継者不在で廃業目前だったところを、地元佐伯の酒を絶やすなと、二人の兄弟が名乗りを上げ、他の蔵で修行のあと令和元年に事業継承した。上酒を翠明、普通酒を天真雪正宗としている。九州の蔵元に多く見られる焼酎と清酒の両造りを行う。	③	大地酒造合資会社 http://www.saiki.tv/~ochi-s/
278	○	○	邪馬正宗	西の誉銘醸株式会社	大分		やばまさむね 慶応4年（1868年）副業として、自家の地米で造る家内工業的酒造から、次第に周辺地域を補うのに値する酒造場として発展。他の酒造場を吸収合併して酒造りを行う。	③	https://www.yukichinosato.com/products/yabamasamune1800/
279	×	×	黒松正宗	漆間酒造株式会社	大分		くろまつまさむね 酒銘によく使われる「黒松」ではなく、地名としての黒松地区の蔵元だったが廃業。ラベルに「府内の酒」とある。江戸時代に府内藩の藩庁があったことから、大分の県庁所在地を地元では府内と呼ぶ。	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）360ページ掲載
280	○	×	文殊正宗	重光酒造場	大分		もんじゅまさむね 国東半島の中心、六郷満山の一つ文殊山から源を発する。清き流れによって醸される酒であることと、切れ味の良い正宗をかけて酒銘とした。通称「文殊」と親しまれたが、酒造りは廃業しており、国東市内や大分県内にホテルを経営している。	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）364ページ掲載
281	×	×	酒井正宗	藤生酒造場	佐賀		さかいまさむね 唐津の蔵元で屋号の酒井屋に酒銘が由来する。2008年ごろまで酒造りが確認されているが、残念ながら跡取り息子さんが早くに他界されて廃業したという情報がある。	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）347ページ掲載
282	×	×	初正宗	合資会社菅崎本店	長崎		はつまさむね 明治以後の銘柄として、蔵元三代目の名前である初太郎と清酒の代名詞である正宗をかけて、酒銘にしたとある。 現在は廃業しており、南島原の蔵元という以外の情報がない。	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）353ページ掲載
283	×	×	彌生正宗	長谷川酒造場	長崎		やよいまさむね 杵岐市の蔵元、島の玄関口と言われる芦辺港の付近に工場があった。近辺に杵岐神社があり、御祭禮に使われたと思われるが、蔵元の情報が無い。	②	全国日本酒ラベル名鑑（監修：日本酒造組合中央会）354ページ掲載
284	○	○	九曜正宗	株式会社熊本県酒造研究所	熊本		くようまさむね 1909（明治42）年、県産酒の酒質向上を目的とし県内の蔵元らの呼びかけによって立ち上げられた研究所。2つの顔があり、ひとつが「協会9号酵母」の元株でもある「熊本酵母」を維持・管理する研究機関、そしてもうひとつが「香露」の醸造元としての顔がある。	③	https://www.kumamotoken-shuzoukenkyusho.com/
285	○	○	瑞鷹正宗	瑞鷹株式会社	熊本		ずいようまさむね 慶應3（1863）年、熊本を代表する熊本発の清酒を造る志で創業。銘は、正月に蔵へ光を入れようと扉開けた時に、雀を追った鷹が飛び込み「正月に鷹が来るとは、なんと良い瑞兆だろう」ということから瑞鷹と命名。銘柄は「瑞鷹」（ずいよう）と「ずいよう正宗」の2銘柄	③	https://www.zuiyo.co.jp/products/nihonshu/51/

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要	ラベル写真等の出典 ⁽¹⁾	「正宗」を確認できる資料または各蔵のHP ⁽²⁾
286	○	×	九重正宗	吉田醸造所 (千代の園酒造株式会社)	熊本		このえまさむね 明治29年(1897年)創業の熊本県山鹿にある蔵元、戦時の企業整備令で合併した4社のうち1社の吉田醸造所で戦前に作っていた酒である。現在の銘柄は「千代の園」、まんが「美味しんぼ」第54巻第3話「日本酒の実力」に登場する。	⑤	千代の園酒造HP 千代の園の歩み、昭和19年参照 https://www.chiyonosono.co.jp/about
287	×	×	鎮西正宗	横山酒店	熊本		ちんぜいまさむね 熊本県宇土市にかつて存在した蔵元、廃業前は酒造をやめて、小売店として営業していたことが判っているが、今は跡形もない。	⑤	
288	○	○	薩州正宗	濱田酒造株式会社	鹿児島		さつしゅうまさむね 創業明治元年(1868年)、「海童」「隠し蔵」など芋焼酎で有名な蔵元だが、過去は日本酒も作っていた。南国鹿児島では温度管理が難しく、40年前に日本酒造りを断念したが、温度管理の技術を学んだ杜氏を招き復活。本州最南端の大吟醸。	③	https://www.hamada-syuzou.co.jp/kinzan/seshu_about/

注記

- (1) ラベル写真等の出典元の番号は以下の分類とした。
①独立行政法人 酒類総合研究所 酒ラベルギャラリー <https://www.nrib.go.jp/sake/collection/>
②株式会社カンキ堂「昭和の酒ラベルコレクション」 （出典元：青娥書房刊 全国日本酒ラベル名鑑）https://kankido.co.jp/showa/showa_index.htm
③各酒造会社様のホームページ
④復刻版発売元ホームページ
⑤その他画像（引用元を記載）
なお、写真引用には可能な限り使用許諾を取り付けた。
なお、著作権の切れた画像はそのまま利用した。その他、廃業や休造の蔵元の画像はそのまま引用した。
- (2) 「正宗」が確認できる資料および、蔵元のホームページは資料名や蔵元のURLを貼付した。
このほか、多数のweb上の情報があったが、大学のデータベースの性質上、蔵元または公共性の高い情報のみを記載した。
正宗の個別確認では、日本醸界年鑑（日本醸界新聞社）昭和32～43年など、全国の銘柄名と蔵元が一覧になっているものなど参考にした。

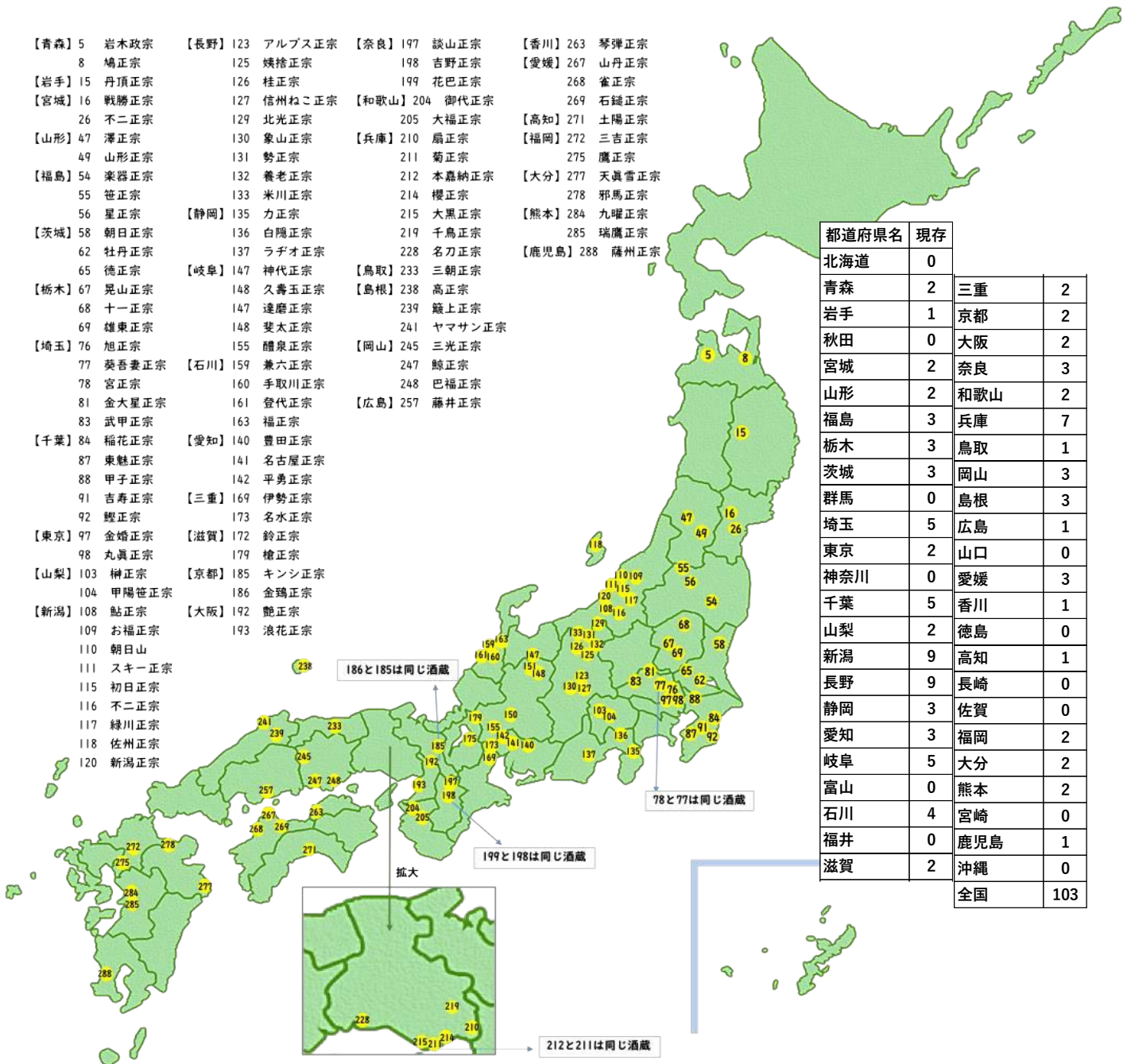
詳細不明の正宗

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要
265	×	×	長久正宗	合資会社岩久酒造店	宮城		ちょうきゅうまさむね 仙臺市東二番丁、昭和13年「宮城県酒造組合誌」
266	×	×	宮城正宗	岩井 正造	宮城		みやぎまさむね 仙臺市原ノ町、昭和13年「宮城県酒造組合誌」
267	×	×	松島正宗	佐々木 利藏	宮城		まつしままさむね 宮城郡松島町、昭和13年「宮城県酒造組合誌」
268	×	×	富多貴正宗	平間 彌五郎	宮城		ふたきまさむね 名取郡岩沼町、昭和13年「宮城県酒造組合誌」
269	×	×	長樂正宗	佐藤 幸俊	宮城		ちょうらくまさむね 亶理郡亶理町、昭和13年「宮城県酒造組合誌」
270	×	×	東山正宗	阿部 庄左衛門	宮城		ひがしやまさむね 玉造郡岩出山町、昭和13年「宮城県酒造組合誌」
271	×	×	金剛正宗	千葉 千代之助	宮城		こんごうまさむね 栗原郡鶯澤村、昭和13年「宮城県酒造組合誌」
272	×	×	稻荷正宗	佐藤 敬次郎	宮城		いなりまさむね 登米郡米谷町、昭和13年「宮城県酒造組合誌」
273	×	×	星正宗	星 喜見之助	宮城		ほしまさむね 石巻市仲町、昭和13年「宮城県酒造組合誌」
274	×	×	天幡正宗	櫻井 武麿	宮城		てんばたまさむね（あめはたまさむね） 桃生郡鷹來村、昭和13年「宮城県酒造組合誌」
275	×	×	瀧水正宗	武田 統助	宮城		たきみずまさむね 桃生郡鷹來村、昭和13年「宮城県酒造組合誌」

商標訴訟がされているため、一覧に記載しない「正宗」

	蔵元	銘柄の現存	銘柄	蔵元	地域	ラベル	呼び名・概要
番外	○	×	金盃菊正宗	金盃酒造株式会社	兵庫		きんぱいきくまさむね 明治23年(1890年)創業、灘の蔵元だが灘酒造組合から除籍。 商標「金盃菊正宗」は大正6年・大正15年・昭和2年・昭和31年・平成11年、無効とする判決が出ているため、これを「かつて存在した」とするには商標法および不正競争防止法に抵触するものを、認めることになりかねないため「認定されない正宗」として分類する。

現存する正宗分布地図



■昭和 13 年 「宮城縣酒造組合三十周年史」に記載された組合員とその代表銘柄

税務署	番号	蔵元名称	所在地	代表銘柄			蔵元の現存	銘柄の現存
仙台	1	(名) 伊澤酒造本店	仙臺市上杉山通	『勝山』	『戦勝正宗』		○	○
	2	伊澤 平太郎	仙臺市北鍛冶町	『竹に雀』	『萩正宗』		×	×
	3	天江 勘兵衛	仙臺市八幡町	『鳳凰天賞』	『天鶴』		×	×
	4	吉岡 吉壽	仙臺市二日町	『白梅正宗』	『勢鯛』		×	×
	5	松本 秀治	仙臺市國分町	『萬歳』			×	×
	6	菅原 甚左衛門	仙臺市國分町	『干松島』	『豊樂正宗』		×	×
	7	(資) 岩久酒造店	仙臺市東二番丁	『長久正宗』			×	×
	8	高木 清兵衛	仙臺市新傳馬町	『鳳山』	『稔正宗』		×	×
	9	(株) 浅見商店	仙臺市名掛町	『龍冠』	『電気正宗』		○	×
	10	(資) 及川酒造店	仙臺市荒町	『狸々』			×	×
	11	森 つるよ	仙臺市荒町	『菊川』	『蓬萊正宗』		×	×
	12	岩井 正造	仙臺市原ノ町	『吾妻稲の花』	『宮城正宗』		×	×
	13	森 みきよ	仙臺市長町	『龜の王』			×	×
	14	樋渡 幸三郎	宮城郡根白石村	『千代日の出』			×	×
	15	佐浦 もと	宮城郡鹽釜町	『浦霞』	『富正宗』		×	×
	16	鈴木 祐吉	宮城郡鹽釜町	『福釜正宗』	『全勝盛』		×	×
	17	鈴木 正護	宮城郡鹽釜町	『勝來』			×	×
	18	(資) 阿部勘	宮城郡鹽釜町	『偉人正宗』	『男山』		○	×
	19	佐々木 利藏	宮城郡松島町	『初日の出』	『松島正宗』		×	×
	20	平間 彌五郎	名取郡岩沼町	『富多貴正宗』	『二木野』		×	×
	21	(名) 小野酒造店	名取郡岩沼町	『武隈』	『旭』		×	×
	22	相原 傳兵衛	名取郡岩沼町	『相生』	『桂正宗』		×	×
	23	石垣 今朝吉	名取郡岩沼町	『竹駒』			×	×
	24	日東酒造 (株)	名取郡岩沼町	『名取駒』			×	×
	25	佐藤 克己	名取郡増田町	『老松』	『三ヶ月』		×	×
	26	(資) 佐々木酒造店	名取郡閑上町	『浪の音』	『清水川』		○	○
	27	早坂 芳雄	黒川郡古岡町	『松華』	『奥正宗』	『奥之華』	○	×
	28	吉岡酒造 (株)	黒川郡古岡町	『芳陵』	『七峰』		×	×
	29	(資) 内ヶ崎酒造店	黒川郡富谷村	『鳳陽』	『富の井』		○	○
	30	武田 淑郎	亘理郡亘理町	『花見頃』			×	×
	31	佐藤 幸俊	亘理郡亘理町	『長樂正宗』			×	×
	32	伊藤 仁一郎	亘理郡逢隈村	『峰正宗』			×	×
古川	33	佐々木 平太郎	志田郡古川町	『御所花』	『玉乃緒』		×	×
	34	佐々木 憲邦	志田郡古川町	『金鶴』	『宇治川』		×	×
	35	青沼 吉治	志田郡荒雄村	『荒雄正宗』	『見龍』		×	×
	36	松本 善右衛門	志田郡松山町	『松緑』	『白羽矢』		×	×
	37	新澤 順吉	志田郡三本木町	『愛宕の松』	『神風』		○	○
	38	浅野 勘九郎	志田郡高倉村	『酔舞』	『平和正宗』		×	×
	39	岩崎 碩治郎	志田郡志田村	『譽の高川』	『岩泉正宗』		○	○
	40	森 清三郎	玉造郡岩出山町	『金光酒』	『森泉』		○	○
	41	阿部 庄左衛門	玉造郡岩出山町	『金の穂』	『東山正宗』		×	×
	42	中鉢 靜	玉造郡岩出山町	『巖泉』			×	×
	43	田中 林兵衛	加美郡中新田町	『真鶴』	『東華正宗』		○	○
	44	(資) 中勇商店	加美郡中新田町	『鳴瀬川』	『桐正宗』		○	×
	45	伊藤 和兵衛	加美郡中新田町	『我國』	『喜久正宗』		×	×

	46	東北酒造	加美郡中新田町	『澤櫻』	『丹羽瀧』		×	×
	47	三島 丈三郎	加美郡宮崎村	『山王正宗』	『宮川』		×	×
	48	(名) 川敬商店	遠田郡高玉	『黄金澤』	『おら賀酒』		○	×
築館	49	狩野 辨壽	栗原郡高清水町	『桂泉』	『高泉』		○	○
	50	門傳醸造 (株)	栗原郡長崎村	『太閤』	『豊國』		○	○
	51	三浦 正男	栗原郡金田村	『金の井』			○	×
	52	佐藤 金雄	栗原郡金田村	『金龍』	『照井正宗』		×	×
	53	狩野 達	栗原郡花山村	『花泉』			×	×
	54	(株) 浅見商店	栗原郡岩ヶ崎町	『稻瀬』	『久利駒正宗』		○	×
	55	千田酒造 (株)	栗原郡鳥矢崎村	『袋正宗』	『谷鶯』		○	×
	56	千葉 千代之助	栗原郡鶯澤村	『金剛正宗』			×	×
	57	三浦 貞六	栗原郡若柳町	『新瀧』			×	×
	58	(名) 三浦酒造店	栗原郡若柳町	『友笑正宗』			○	×
	59	萩野酒造	栗原郡萩野村	『萩の鶴』			○	○
	60	佐藤 敬次郎	登米郡米谷町	『宮城の譽』	『稻荷正宗』		×	×
	61	渡邊 美賀	登米郡登米町	『大江山』			×	×
	62	石越醸造 (株)	登米郡石越村	『澤の友』			○	×
志津川	63	菅原 昭治	本吉郡氣仙沼町	『男山』	『伏見』		○	○
	64	濱田 茂七	本吉郡氣仙沼町	『濱松』			×	×
石巻	65	(資) 清野酒造店	石巻市坂下	『日和正宗』	『萬壽友』		×	×
	66	本間 良雄	石巻市立町	『福の玉』	『牡鹿正宗』		×	×
	67	平井 孝次郎	石巻市立町	『新關』	『大漁』		○	×
	68	鈴木 源助	石巻市新田町	『金兜』	『壽』		×	×
	69	墨迺江酒造 (株)	石巻市新田町	『谷風』	『住迺江』		○	×
	70	角田 憲司	石巻市仲町	『神生正宗』	『白水』		×	×
	71	星 喜見之助	石巻市仲町	『星正宗』	『双鶴』		×	×
	72	渡波酒造 (資)	牡鹿郡渡波町	『はつ櫻』	『萬石正宗』		×	×
	73	櫻井 武麿	桃生郡鷹來村	『矢本菊水』	『天幡正宗』		×	×
	74	武田 統助	桃生郡鷹來村	『鹿の妻』	『瀧水正宗』		×	×
大河原	75	森 孝之助	柴田郡大河原町	『大鳳』			×	×
	76	大沼 新左衛門	柴田郡村田町	『乾坤一』			○	○
	77	(株) 渡邊醸造部	刈田郡白石町	『蔵王』	『白石梅正宗』		○	○
	78	齋藤 萬治郎	刈田郡白石町	『千代フチ』			×	×
	79	竹谷 榮治	伊具郡角田町	『千代の竹』			×	×
	80	鈴木 みよの	伊具郡西根村	『山櫻』			×	×

雑誌「硯水」Vol. 5 (2024 年号) p. 4 に引用した「宮城縣酒造組合三十年史」¹⁶⁾に収載されている昭和 13 年当時の宮城県内の蔵元とその銘柄のリストを改変。青字の銘柄が現存するもので、黄色の網掛けが「正宗」の名がついたもの。